

## 【資料】令和元年度 神戸市立博物館事業自己点検評価

神戸市立博物館は下記の4項目をその「使命」として位置づけています。

- (1) 神戸を中心とする考古、歴史資料と、東西文化の交流に関する南蛮美術、古地図資料などの調査・研究・収集を通じて、多様な神戸文化の特徴と文化交流の態様を明らかにします。その成果を市民・利用者と共有するとともに、これを次世代に継承し、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
- (2) 市民・利用者が、優れた国内外の文化・芸術にふれあう機会を積極的に「提供する」博物館として、また、神戸の文化にこれまでにない魅力をつけ加えるために新たな調査・研究を「提案する」博物館、その成果を「発信する」博物館としての役割を果たします。
- (3) 博物館を利用するすべての人々が、知りたいこと、学びたいことに積極的に対応し、多くの利用者が、集い、楽しみ、憩うことができ、また、神戸を愛し、誇りとする拠りどころを得ることができる博物館としての役割を果たします。
- (4) 阪神淡路大震災の教訓を生かし、文化財を災害から守る重要性、コミュニティや市民の自発的な活動の大切さ、都市復興のなかで文化の果たす役割など、震災とその復興のなかで得た知見を全国に、世界に発信します。

上記の「使命」の実現のため、神戸市立博物館は下記の4つの「博物館使命の4大要素」を定め、これらが包含する事業に対する自己点検評価を行っています。

1. 歴史と文化の継承と研究
2. 歴史と文化への窓口
3. 人々とともに歩む
4. やさしさと安心の確保

令和元年度の神戸市立博物館事業自己点検評価の「総評」は下記のとおりです。

### 【総評】

「博物館使命の4大要素」のうち、「1.歴史と文化の継承と研究」はC評価、「3.人々と共に歩む」はA評価、その他はB評価とした。

当館は、開館以来初の大規模リニューアルを行い、令和元年11月2日、新たな一步を踏み出した。リニューアルにおいては、平成27年度に策定した基本計画に基づき、「まちに開かれた博物館」「わかりやすく伝えるための再構築」「博物館機能のさらなる充実」の3点を基本方針とし、その実現を図ることができた。具体的には、当館1階を無料スペースとし、「神戸の歴史展示室」「情報コーナー」「体験学習室」「ミュージアムカフェ・ショップ」を設け、2階「コレクション展示室」では、当館が誇る貴重な資料を、順次入れ替えながら常設展示できるよう、ゾーニングから展示内容まで、全面的に刷新した。一方で、リニューアルオープンに向けた各種の準備業務に忙殺され、博物館資料の補修など、博物館としての基本的な業務への取り組みがやや手薄になったことは否めない。また、老朽化した空調設備の更新を行ったが、リニューアル後においても、一部で温湿度や空気環境について改善が必要な点も見受けられ、今後の運用において必要な対応を行いたい。

展示活動においては、工事休館中の取り組みとして、台湾で「神戸市立博物館精品展」を開催できたことは、当館の海外での認知度向上につながるるとともに、当館学芸員の経験という意味でも貴重な機会であった。さらに、「リニューアル記念名品展」、「建築と社会の年代記」といった特別展を実施し、企業とのタイアップによる新たな事業展開も実現することができた。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響で、「コートールド美術館展」が、作品展示を完了しながら中止を余儀なくされたことは、非常に残念なことであった。

博学連携事業等については、本年度においても、幅広く、きめ細かく対応することができた。当館の「強み」として、今後も、継続していきたい。

以上、全体としては、年度当初の目標水準を達成できたと考えており、特別展や普及活動においては、より高い水準での成果を得られたのではないかと考えている。今後は、より広く当館の魅力を発信し、認知度向上を図るためのきめ細かい広報展開を行うとともに、夜間開館時間帯での集客の工夫、より分かりやすく展示資料を紹介するための音声ガイドなど新たな技術への対応、といった点について検討を進めていきたい。さらに、大規模リニューアルで長期にわたり休館していたにもかかわらず、財政的な制約等で対応できなかった老朽設備の改修にも早期に着手する必要がある。今後も、関係諸機関との連携を強化し、withコロナ、ポストコロナの博物館の在り方を模索しつつ、職員一丸となって、当館の使命を果たしていきたい。

# 1. 歴史と文化の継承と研究

評価C やや劣る

**評価の詳細** 前半期については、リニューアル工事の最終段階を迎えていたため、それらの業務に忙殺され、資料補修や資料保存の業務が十分に機能していなかった。同様の事情から、調査研究のうち、『館蔵品目録』『研究紀要』についても発刊を見送ることとなった。次年度については、業務が旧態に復するので、調査研究に基づく、補修、保存、調査研究の発信に繋げていくことが望まれる。空調設備の不具合等については、今後も注視し、よりよい環境の創出に向けて関係各所と調整を続けていくことで対応したい。

# 1-1-01 資料受入

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 限られた予算の範囲で、各種展示や調査研究に活用できる資料・作品を収集することができた。引き続き、積極的に資料の収集を図ることが望ましい。なお、寄贈においては、今後も当館の性質や専門性とは異なる資料・作品に対する対処が必要な場合が想定されることから、収集方針の策定や外部委員会の設置など、新たな制度の導入も検討する必要がある。

1-1-01-01 資料購入・寄贈・寄託・保管転換	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<b>P課題と目標</b> 【購入】・【寄贈】・【寄託】それぞれにおいて、博物館資料の収集方針や活用計画に沿った実績を目指す。 【30年度実績】 ・購入 12件46点 ・寄贈 40件219点 ・寄託 1寄託者21件21点(契約更新)	<b>自己評価の詳細 プラス面</b> 【購入】 各分野で展覧会、並びに調査研究で活用が見込まれる資料・作品を加えることができた。また、適切に予算を執行した。  【寄贈】 神戸に関する資料を中心に、館蔵品を拡充することができた。  【寄託】 職員内で情報を共有できるように、寄託資料一覧を整理した。  【保管転換】 資料の性格を踏まえて、より活用が見込まれる施設への保管転換を実施した。	<b>自己評価の詳細 マイナス面</b> 【購入】 昨年度の指摘事項であった「自らの目で購入候補を探し出し、館蔵品に加えること」は十分に改善できていない。
<b>D実施内容</b> 【購入】 11件156点 [考古・歴史]7件152点 (古写真)557 FUKUWARA STREET KOBE[神戸福原の町並](1件1点)／摂州有馬郡上津下村文書(1件146点)／神戸海岸ヨリ兵庫和田ノ岬望む図(1件1点)／安政五午年大坂海岸絵図(1件1点)／摂州神戸浦庄屋生嶋四郎太夫書状(1件1点)／東海道・西海道・南海道絵図 全(複製、1件1点)／天保山魯船図(複製、1件1点) [美術]2件2点 練上手ガラス盃(1件1点)／鶴洲筆 梅に鴛鴦図(1件1点) [古地図]2件2点 浪花名所一覽(1件1点)／伊豆國全図(1件1点)  【寄贈】 58件67点 [考古・歴史]55件63点 兵庫浜本陣網屋(南條)新九郎家資料(54件62点)／兵庫県違式註違条例(1件1点) [美術]1件2点 川西家伝来調度品(1件2点) [古地図]2件2点 神戸市交通名所図絵・源内焼方形日本図皿(2件2点)  【その他】1件1点 聖フランシスコ・ザビエル像(レプリカ)(1件1点)茨木市提供  【寄託】 0件  【保管転換】 1件2点 [美術]1件2点 神原浩《南仏風景》、《アネモネ》[転換先:神戸ゆかりの美術館]		

## 1-1-02 資料保存

評価 C やや劣る

**評価の詳細** リニューアル工事を終えて、令和元年度下半期は資料の展示・保存環境を従前以上に適正な状態に回復させなければならないところであった。しかしながら、空調設備の運用の不備や設備の不具合があり、一部に資料の展示・保存環境が安定していない状態が認められ、改善の必要が生じた。関係者間での調整を図りながら、できるだけ早期に、資料保存環境の不安定な原因を究明していくとともに、改善調整の場を設けて、空気環境の正常化に向けて努めていく必要がある。また、収蔵資料の保存体制の充実を維持していくために、年間を通した定例的なIPMモニタリングや清掃の体制が学芸課全体での取り組みとして定着しつつある。不測の問題発生に際しても、臨機応変に対応できてきており、今後とも引き続き、より効率的・効果的な手法を常に探求しながら進めていくことが必要である。

### 1-1-02-01 収蔵庫・展示室の保存環境

自己評価

C やや劣る

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
定例の温湿度モニタリング・夏季生物環境調査、収蔵庫清掃の実施。 生物環境においては、館内ゾーニングの「収蔵区域」における虫類0・菌類0の環境を目指す。 温湿度管理は、「収蔵区域」における±5%・2℃以内の変動に抑える。 環境変化に即応した対策の実施。適切な緊急時対応の実施。 モニタリング情報の共有化の実施	【収蔵庫・展示室内の温湿度モニタリング】 ・週1回、収蔵庫、特別展示室、コレクション展示室、神戸の歴史展示室の室内及び展示ケース内の温湿度を測定 【収蔵庫の清掃】 ・毎月第3水曜日に全学芸員と指導主事で収蔵庫10・11の清掃 【収蔵庫トラップ】 ・毎月第3水曜日に収蔵庫10・11のトラップの確認と交換を実施 【燻蒸処理】 ・12月(特別展「建築と社会の年代記」借用資料):当館BFハロゲンポンプ室にて実施(エキヒューム、48時間燻蒸) ・3月(新規購入資料を中心):当館BFハロゲンポンプ室にて実施(エキヒューム、48時間燻蒸) 【夏季生物環境調査】 ・8月、9月に館内生物環境調査を実施 【害虫防除薬剤散布】 ・7月、3月に実施	・収蔵庫および展示室のモニタリング、収蔵庫清掃、燻蒸、生物環境調査、薬剤散布と、定例の業務を恙なく実施できた。 ・対応が必要な事案については、応急的に適切に対応し、改善を図った。	・リニューアルに伴う不具合、猛暑の影響により、温湿度や空気環境、虫菌害について、改善が必要であった。 ・収蔵庫清掃については、毎月定例の学芸課の業務としている。参加する学芸員の固定化や、部分的な参加が認められる状況となっている。収蔵庫は学芸業務の核となる施設であり、全学芸員での取り組みが理想的である。 ・「収蔵区域」における温湿度管理においては、リニューアル設備工事完了直後に不具合が発生し、除湿器を稼働させるに至ったが、大過には至らず、現状では落ちついた状態が維持できている。 ・また、「収蔵区域」での虫菌類「0」環境を目標としていたが、悲観することなく、今後とも引き続き努力していく必要がある。
【30年度実績】 毎月第3水曜日に全学芸員で収蔵庫10・11の清掃／展示室の清掃／4階収蔵庫トラップ交換:49箇所、毎月実施。夏季生物環境調査:2回実施。／殺虫作業1回実施／燻蒸2回実施	【リニューアル展示】 ・新規製作または改修した展示室および展示ケースについて、文化庁・東京文化財研究所の指導の下、パッシブインジケータの設置による有機酸・アンモニア濃度の空気質測定を実施し、指定の基準値以下となった。		

## 1-1-03 資料補修

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

**評価の詳細** 2件の資料について、本格的な修理が実施でき、一定の成果をあげることができた。

修理が必要な資料・作品のリストアップや業者を交えた検討なども行われたところであるが、リニューアル後の特殊な事情があったとはいえ、配当された予算をすべて消化できなかったのは、反省すべき点である。配当された予算の計画的な執行が必要である。

今後、総合資料調査と並行しながら、補修が必要な資料の把握に経常的に努め、計画的な補修作業を継続して行う必要がある。また、懸案となっている複数年次を要するような大規模な資料の修復が発生した場合の対応や予算獲得のための手続きを検討していく必要がある。

### 1-1-03-01 資料補修

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

#### P課題と目標

年度末まで公開資料の状態調査の完了と、資料補修中長期計画の策定。  
状態保全の緊急性、活用の可能性を考慮に入れた資料補修の実施。

#### D実施内容

##### 【本格補修】

- ①鶴亭筆「墨梅図」(新2015-005) 1幅 解体修理、太巻・箱新調
- ②「東海道分間絵図」(南波-20-088) 5巻5冊 本紙虫損箇所修理及び繋ぎ直し

##### 【応急補修】

- ③「紅塵荘アーチ形ステンドグラス」(新2016-008)、「紅塵荘円形獅子ステンドグラス」(新2014-019-001) 2点  
収納箱製作及び「アーチ形」真鍮枠製作、「円形」釘除去
- ④「郵便ポスト」 1点 錆除去
- ⑤「世界図」(秋岡-01-043) 裏打ちなおし
- ⑥陳賢筆「倚杖羅漢図」(新1991-035) 1幅 剥落止め
- ⑦小磯良平「婦人像」(新2018-014-001)、棟方志功「獅子窟岩の柵」(新2018-014-003)、香月泰男「トマト」(新2018-014-005)、香月泰男「幼鳩」(新2018-014-006) 4面 額修理
- ⑧「トムセン邸家具」 1点 クリーニング、ポリッシュ

##### 【その他】

- ⑨ピュアガード45 蒔絵アルバム等の間紙 購入
- ⑩文書用中性紙箱 購入
- ⑪「観艦式パノラマ写真」 保存箱新調

##### 【資料補修計画】

・総合資料調査に基づき、各担当者から3/17までに補修希望資料と下見積もりを集約。資料の状態、優先度、予算等を勘案し、令和2年度以降の補修計画を策定。

#### 自己評価の詳細 プラス面

・各分野、担当者からの意見をもとに、緊急性の高い作品・資料について、適切な本格補修を実施できた。  
・応急補修については、③は11月からの名品展での公開、⑦は3月からのコレクション展示での公開、⑧はリニューアル後のミュージアムカフェでの活用を見据えた適切な補修を実施できた。

#### 自己評価の詳細 マイナス面

・リニューアルに伴う予算執行の保留が続いた結果、補修費を満額執行できなかった。  
・一部業務について、見積合わせや発注を速やかに実施できなかった。

## 1-1-04 調査研究

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

**評価の詳細** 計画中の展覧会に関する調査研究活動が、それぞれについて確実に進行しており、展覧会会期を視野に入れながら、着実に成果を積み上げることができている。結果的に、博物館リニューアルとの関連で後半に集中することとなったため、今後は年度内でのスケジュール管理に基づき、さらに活動の継続的な実施により、各担当による成果結実の集大成を期待したい。研究成果の発信では、内容面での評価を比較しづらいものの、全体の件数では昨年度に比して単純に2割増となった。博物館リニューアルの推進と並行して、執筆活動が充実できたことは特に評価できる。また、年度の終盤に新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴う講演会等の中止案件がいくつかあったにも拘わらず、全体を通じて盛況であったことがわかる。引き続いての積極的な発信が望まれるところである。一方で、11月のリニューアルオープンの準備対応に伴って、これまで定期的に刊行してきた研究紀要・館蔵目録の刊行が見送りとなった。来年度には確実に刊行できるよう、適正なスケジュール管理を行いながら取り組む必要がある。館外における資料調査は、活発には展開できていないものの、各担当者がテーマを着実に設定しながら資料調査に努めている点を積極的に評価しておきたい。今後、現地調査をはじめとして、計画性をもった資料の調査研究の進捗を図り、基礎資料を蓄積し、企画展覧会へと集大成する流れが理想的であろう。

1-1-04-01 調査研究活動(自主企画展計画含む)	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<b>P課題と目標</b> 次年度以降の展覧会に向けて計画的に調査を進め、調査成果を適切に整理する。 次年度以降の展覧会に向けて関係諸機関と調整を進める。 次年度以降の展覧会に向けて必要な予算要求を実施する。	<b>自己評価の詳細 プラス面</b> ・来年度以降開催予定の展覧会にかかる資料調査を概ね実施できた。展覧会への出品交渉についても、トラブルなど発生なく進めることができた。 ・次年度以降の展覧会に向けた準備についても、概ね順調に進めることができている。	<b>自己評価の詳細 マイナス面</b> ・リニューアルオープンに向けた準備のため、特に「六甲展」の開催に向けた調査のうち、実施予定していた現地調査に適した季節を逃す結果となり、実施できなかった。 ・また、資料調査を実施できた展覧会においても、調査時期がリニューアルオープン後の11月以降となってしまう、実施時期の偏ってしまう結果となった。 ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、3月中旬以降は調査が中止となった。

1-1-04-02 館外資料調査	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<b>P課題と目標</b> 展覧会、博物館の担当分野、個人の研究テーマに関わる館外調査を計画的に行う。 【実績値】 展覧会に関わる調査件数 博物館の担当分野に関わる調査件数 個人の研究テーマに関わる調査件数	<b>自己評価の詳細 プラス面</b> 【次年度以降の展覧会に向けた調査】 ・おおむね計画していた調査を実施できた。調査結果を踏まえた展覧会の構成、出品作品交渉などを行えた。  【個人のテーマ研究】 ・各学芸員の担当資料、あるいは研究テーマに沿った調査を実施できた。	<b>自己評価の詳細 マイナス面</b> ・リニューアルオープンに向けた準備に追われたため、年度の後半期に調査が集中することとなった。そのため、当初予定していた資料調査が一部において実施できなかった。

1-1-04-03 研究成果発信(執筆・講演・発表等)	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p><b>P課題と目標</b></p> <p>博物館の事業及び個人の研究テーマに係る研究論文(査読論文)、執筆(査読論文以外の論文、図録解説以上の解説及び報告等)、普及系記事(新聞記事など)、学会発表、講演(1h以上)などにより、研究成果を積極的に発信する。</p> <p><b>【H30実績値】</b></p> <p>執筆 28件 講演 39件 発表 7件 リニューアル休館中の館蔵品紹介 18件 その他 3件</p>	<p><b>D実施内容</b></p> <p><b>【研究論文】</b>1件</p> <p><b>【執筆】</b>54件 [展覧会図録]『交融之美－神戸市立博物館精品展』(4件)、『神戸市立博物館名品撰－まじわる文化、つなぐ歴史、むすぶ美－』(13件)、『建築と社会の年代記－竹中工務店400年の歩み－』など [学会誌・研究雑誌]『民衆史研究』、『地方史研究』、『故宮文物』、『埴輪論叢』など [その他]監修、新聞記事へのコメント、研究報告(5件)</p> <p><b>【講演】</b>22件 リニューアル記念「神戸市立博物館名品展－交わる文化、つなぐ歴史、むすぶ美－」記念講演会(5回)、ミュージアム講座(5回)、勤労市民センター(6回)</p> <p><b>【発表】</b>2件 国立歴史民俗博物館共同研究にかかる研究報告</p> <p><b>【その他】</b>35件 「交融之美 神戸市立博物館精品展 館際合作ワークショップ(一般来館者を聴講者とするワークショップ)」(4件)、非常勤講師(5件)、大学との連携事業における派遣講師、共同研究、査読委員など [リニューアルオープンにかかる館蔵品紹介] 神戸新聞紙面「青空主義 「神戸市立博物館コレクション私のイチ押し13～19」」(7件)、「神戸市立博物館ここがイイね!」(4件)</p>	<p><b>自己評価の詳細 プラス面</b></p> <p><b>【執筆】</b> リニューアルオープンに合わせて製作した名品図録では、全ての学芸員が分担して執筆を担当し、充実した内容となった。 各分野が個人の研究テーマに関わる執筆を実施できた。</p> <p><b>【講演】</b> リニューアルオープンを記念した特別展では、若手学芸員が中心となって考古・歴史、古地図、美術の様々な分野の講演内容を発表することができた。</p> <p>市内各所の勤労市民センターでは、特定の分野にかたよることなく、神戸の歴史、神戸ゆかりの美術品、館蔵品について幅広い内容の講座を実施できた。</p> <p><b>【その他】</b> リニューアル工事に伴う休館中を利用した海外展でのワークショップ発表、新聞紙面に学芸員おすすめの資料を紹介する記事を掲載するなど、休館中だからこそ実施可能な研究成果発信に取り組めた。</p>
1-1-04-04 館蔵品目録・研究紀要・年報	自己評価	C やや劣る
<p><b>P課題と目標</b></p> <p>『年報(平成30年度)』： 令和元年8月、当館HPにてPDF公開</p> <p>『館蔵品目録』： 令和2年3月末刊行 『研究紀要』： 令和2年3月末刊行</p>	<p><b>D実施内容</b></p> <p><b>【年報】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月:執筆依頼(8/2締切)</li> <li>・8/30付で当館ホームページにて公開</li> </ul> <p><b>【館蔵品目録・研究紀要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月:執筆希望者募集</li> <li>・7月:エントリーの締め切り(研究紀要4件、館蔵品目録0件)</li> </ul> <p>※7/31開催の学芸会議にて、リニューアルオープンに向けた準備のため、執筆・編集作業が時間的に難しいと判断したため、今年度の研究紀要、館蔵品目録の刊行中止を決定。</p>	<p><b>自己評価の詳細 プラス面</b></p> <p><b>【年報】</b> 平成30年度分の活動について計画通り、当館ホームページにて公開することができた。リニューアル工事にかかる休館中の活動についての成果も盛り込むことができた。</p> <p><b>自己評価の詳細 マイナス面</b></p> <p><b>【館蔵品目録・研究紀要】</b> 今年度の刊行を中止としたため、予算執行ができなかった。次年度にて対応することとする。</p>

## 2. 歴史と文化への窓口

評価B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

**評価の詳細** リニューアル工事によって、積年の課題であった有数の館蔵資料を活かすコレクション室を創出したこと、ならびに港を中心とした神戸の歴史展示室を無料ゾーンとして来館者に提供できるようになったことは、今年度の評価のなかで特筆すべきことである。  
今後は、これらの空間において、各分野の学芸員の調査研究の成果を反映させる取組が重要となってくるものと考えられる。期待したい。  
また、体験学習室や情報コーナーにおいても順次更新を行い、さらなる充実を図ってほしい。  
特別展示では、実務面でやや齟齬があったようだが、館蔵資料をもとにした「交融之美」展を国立故宮博物院南部院区で実施できたことは、神戸市立博物館を世界的にアピールできた大きな成果と捉えてよいだろう。リニューアルオープン後の「神戸市立博物館名品展」では、あらためて館蔵資料と対峙する機会となったであろうし、「建築と社会の年代記」では博物館と企業が展覧会を創るといった点で有意義であった。

## 2-2-01 常設展

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

**評価の詳細** 本年度はリニューアルオープンを受けて、神戸の歴史展示室・地域文化財展示室ならびにコレクション展示室が新たに整備され、情報コーナー、体験学習室も新装した。

神戸の歴史展示室は、1階に集約され、無料ゾーンとして、来館者に神戸の歴史に触れる機会が増えるきっかけとなったことは大いに評価できる。展示資料の固定化に陥ることなく、適宜展示替えなどで来館者の欲求に答えていくことが肝要である。

2階に新設したコレクション展示室では、桜ヶ丘銅鐸・銅戈群、ザビエル像を常設することに加え、その他のスペースではテーマと会期を適宜設定しながら、館蔵資料・作品を活用する機会が増えることとなった。このことは、学芸員のモチベーションを高める点でも大きく評価でき、各分野の学芸員の企画の展開を期待したい。

また、従来図書等の閲覧に供していた機能を情報コーナーとして、1階に新たに設けた。比較的閲覧しやすく、学習の基礎となるような図書の配架・閲覧とPCによる資料検索閲覧が可能となった。図書の配架には空間的な制約もあり、今後はデータベース主軸としながら、PCによる情報提供の更なる充実が必要となろう。

体験学習室は、マグネット式で神戸の歴史を学習できる年表などの教材の新規拡充を図ることができた。運営形態としての学芸員のかかわり方と、学習支援交流員の活動とその拠点としての位置づけを早急に確立する必要性が指摘でき、十分な議論を重ねることが必要であろう。

### 2-2-01-01 神戸の歴史

<b>P課題と目標</b>	<b>D実施内容</b>	<b>自己評価の詳細 プラス面</b>	<b>A 優れている</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>交流を中心とした神戸の歴史を伝えることのできる展示を完成させる。</li> <li>大人から子供まで楽しむことのできるわかりやすい展示を完成させる。</li> <li>展示内容についてより理解が深まるガイドブックを製作する。</li></ul>	<p><b>【リニューアル】</b></p> <p>昨年度から引き続き、展示設計の受託業者である(株)丹青社と、原稿・データのやり取り、展示台や演示具の調整を図り、9/10-12に実物資料を展示完了。展示室内の写真撮影も行い、11/2のオープンまでにHPや印刷物で使用。</p> <p><b>【展示内容と展示替え】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>[原始]「海の回廊～東アジアとの交流～」 出土資料、五色塚古墳模型等を用い、太古の神戸の人々の足跡を紹介。展示資料:五色塚古墳出土 鱈付円筒埴輪、弥生土器など30件(館蔵資料21件)</li> <li>[古代中世]「大輪田泊から兵庫津へ」 文献史料、地域に伝わる有形・無形資料等を通して、古代・中世の実像を紹介。展示資料:略平家都遷、兵庫北関入船納帳(複製)など10件(館蔵資料8件)展示替え:1/24「室町幕府御教書(複製)」</li> <li>[近世]「兵庫津の繁栄」 文献史料や絵図のほか、兵庫津模型を交え、港町として繁栄した江戸時代の兵庫の姿に迫る。展示資料:羽柴秀吉領知判物(極井家文書)、天保山魯船図、摂津名所図会など18件(館蔵資料15件)展示替え:11/25 西国街道絵巻、12/28 兵庫勤番文書など8件、1/15 太平記英勇伝松永大膳久英</li> <li>[近現代]「開港 ～世界との交わり」 文献史料、パンフレット、絵葉書などの資料を展示し、近現代の神戸の姿を活写。展示資料:神戸外国人居留地計画図、摂州神戸海岸繁栄之図、国産第一号パーマメント機ほか43件(館蔵資料42件)展示替え:11/25 摂州神戸海岸賑之図、12/25 神戸外国人居留地計画図(複製)、1/26 源内焼地区皿(震災被災資料)</li> <li>[地域文化財展示室]</li></ul> <p>「有馬と須磨 ―伝承と文化財」(11/2-12/28) 金銅板製経箱など3件(館蔵資料2件) / 「淡河制札と織豊期の神戸」(1/11-3/22) 羽柴秀吉制札など6件(館蔵資料1件) / 「兵庫津絵図」(3/28-6/21) 兵庫津絵図など3件(すべて寄託資料)</p>	<p><b>自己評価の詳細 プラス面</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>各分野担当者を中心に、キャプション・グラフィックの校正を進め、11/2のリニューアルオープンよりも余裕をもって安全に展示を完成させることができた。展示室内の撮影も行うことができ、早い段階から実際のビジュアルを交えた広報活動が展開できた。</li> <li>限られたスペースを十分に活用し、計画どおりに多数の実物資料を展示でき、東西交流を中心とした神戸の歴史を的確に展開できている。適宜資料の展示替えを行っており、日頃の館蔵資料研究の成果を発信できている。</li> <li>キャプションについて、展示替えの機会を利用し、より見やすいよう改善を図れている。</li> <li>実物資料に加え、映像や模型、グラフィックを用いることで、子供だけでなく、大人の方にもより親しみやすく、分かりやすい展示内容となった。なかでも、居留地模型内を詳細に見られるストリートビューや、3D加工を施した古写真を大画面で見られるシアターは、多くの観覧者から好評を得ている。。</li> <li>地域文化財展示室においては、新規の壁面ケースに加え、既存ののぞきケースを追加設置したことによって、展示内容をさらに充実できた。</li> <li>展示ガイド『古代から現代へ KOBЕ歴史の旅』は、原始から近現代までの神戸の歴史の入門書としても充実した内容となった。また、出版社と共同で製作したことでより手に取りやすい、親しみやすい仕上がりととなった。</li> <li>館内サインは4ヶ国語表記(日・英・中・韓)にて対応し、展示解説は2ヶ国語(日本語・英語)表記で対応した。</li></ul>	<p><b>自己評価の詳細 マイナス面</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>積極的な展示替えを行うことを目的として、差し替えやすいプラスチック板にラベルシールを貼る仕様のキャプションを当初製作したが、リニューアルオープン以後、キャプションの文字が小さいとの意見が来館者から多数寄せられた。展示替え資料を中心に、大きめの文字で打ち出した貼りパネルのキャプションに差し替えているが、いまだ改善できていない箇所も残っている。</li> <li>資料の展示替えを実施できていないコーナーがいくつかある。</li> <li>タッチパネル・映像の不調があった。常時監視できないので、改善が必要である。</li> <li>展示室内、特に近世コーナーの適切な湿度維持ができていない。加湿器を新規導入したが、いまだ根本的な解決が図れていない。</li> <li>地域文化財展示室について、2階のコレクション展示室(考古・歴史)との住み分けが曖昧となっており、コンセプトが伝わりにくくなっている。展示室の存在をアピールするとともに、展示内容やスケジュールの掲出方法についての改善の必要がある。</li> <li>多言語による展示解説や音声ガイドの導入など、十分な検討には及ばなかった。引き続き、サービスの充実・向上について検討していく必要がある。</li></ul>
<b>【通算満足度】</b> 83.7			

2-2-01-02 コレクション展示室		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<b>P課題と目標</b>	<b>D実施内容</b>	<b>自己評価の詳細 プラス面</b>	<b>自己評価の詳細 マイナス面</b>
入場者数10万人以上	<b>【リニューアル】</b>	・当館を代表する所蔵品である国宝「桜ヶ丘銅鐸・銅戈」と重要文化財「聖フランシスコ・ザビエル像」専用の展示室を新設し、実物(ないしは複製)をいつでも	・コレクション展示室では、入場率が1割を超えられないのが現状で、目標入場者数の設定とはかけ離れた結果となった。別立ての料金体系である
満足度83以上	市住宅建築局設備課、設計者、施工者と協議を重ね、コレクション展示室内の空調吹出音の軽減を施工。温湿度管理は継続して経過観察する必要がある。	見えていただける環境を整えられた。	ことに加え、入館者に敷居の高い印象を与えているかもしれない。SNSでの展示内容の紹介、料金体系、サイネージなどの館内告知の手法の改善を検討する必要がある。そのうえで適切な入場者数の設定を行わなければならない。
入場者を満足させる展示。	<b>【展示室総入場者数/館総入場者数】</b> 4,991人/77,711人	・美術、古地図、びいどろ・ぎやまん・ガラス、考古・歴史の展示室(展示ケース)を新設したことで、いつ来館しても各分野のコレクションを見ていただけるようになった。	・リニューアルで検討した展示の美しさを追求した結果、開館当初には展示室の照度が低く、暗すぎるという指摘を多くの観覧者から受けた。その対応として、適宜照度の見直しを行い、展示環境の改善に努めた。新しいLED照明に即した、適切な照度設定が必要である。
入場者要望などへの適切な対応	<b>【開室時の通算満足度】</b> 84.5	・各展示はテーマを設けて展示替えを実施していくことで、館蔵品の活用と調査研究の進展がはかられる。	・一部の展示ケースに、許容範囲とはいえ温湿度の不安定な箇所が見られた。
収集・研究計画に連動した展示の実施。	<b>【国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈】</b> 実物資料(銅鐸14点、銅戈7点)を通期展示。ケース内湿度の安定を図るべく、シリカゲルと45%のオートソープを設置して、経過観察中。	・展示替え作業は、展示を企画した学芸員のみならず、他の学芸員や作業員の協力によって、限られた日数の中で安全に実施できた。	・資料の収集や研究計画と連動した中長期的な展示計画の策定ができなかった。今後の大きな課題である。
年度末までに収集・研究計画に連動した展示	<b>【聖フランシスコ・ザビエル】</b> 実物資料を11/2-12/22まで展示し、これ以降は複製を展示。	・最新の研究成果に基づいた展示を行い、市民に紹介できた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
中長期計画の策定。	<b>【美術】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
11/2-12/28 「人物表現の洋風趣味」(13件)	<b>【美術】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
1/11-3/1 「春を祝う―鶴亭とその弟子たち」(6件)	<b>【美術】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
3/17-5/6 「平井コレクション受贈記念 住まいを飾るたのしみ」(27件)	<b>【美術】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
11/2-12/28 「古地図からみた江戸時代初期の日本」(10件)	<b>【古地図】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
1/11-3/1 「湊町を描く」(11件)	<b>【古地図】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
※3/17以降は、平井コレクション展のため、古地図展示なし。	<b>【古地図】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
11/2-12/28 「びいどろ・ぎやまん・ガラス」	<b>【びいどろ・ぎやまん・ガラス】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
11/2-12/28 「びいどろ・ぎやまんの名品」(9件)	<b>【びいどろ・ぎやまん・ガラス】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
1/11-3/1 「建築を飾るガラス」(9件)	<b>【びいどろ・ぎやまん・ガラス】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
3/17-5/10 「かわいいい・びいどろ」(9件)	<b>【びいどろ・ぎやまん・ガラス】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
11/2-12/28 「銅鐸の謎」(12件)	<b>【考古・歴史】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
1/11-3/22 「幕末の台場築造と地域社会」(14件)	<b>【考古・歴史】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。
3/28-6/21 「神戸レトロ名所案内」(10件)	<b>【考古・歴史】</b>	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。	・アンケートの集計上は、満足度は目標値を上回ることができた。

2-2-01-03 情報コーナー		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<b>P課題と目標</b>	<b>D実施内容</b>	<b>自己評価の詳細 プラス面</b>	<b>自己評価の詳細 マイナス面</b>
展覧会・展示と確実に関連付けされた図書の配架。	<b>【図書の配架】</b>	<b>【図書の配架】</b>	<b>【図書の配架】</b>
充実した情報コンテンツの公開	7月:昨年度仮置きした図書の移動を実施(博物館・美術館:3F作業室3、大学の研究紀要:地階写真室)	・大学紀要をはじめ各施設・機関のリポジトリにて公開されている刊行物については、1年間保管のうえ廃棄手続きをすることで蔵書数(スペース)を削減できた。	・情報コーナー全体の利用者数の把握を行えなかった。
「コレクション検索」1,200点	10月:情報コーナー等への図書の振り分け作業と配架	・リニューアルオープン後、図書担当者により情報コーナー、カフェの配架雑誌を定期的に入れ替えて、利用者に提供した。	<b>【図書の配架】</b>
「神戸の歴史マップ」100件以上	・情報コーナー:当館で過去に開催した展覧会図録、当館の館蔵品に関連する他館の展覧会図録	・リニューアルオープンに合わせ、図書の配架、情報コンテンツの公開を実施できた。	・仮置き状態の図書の配架先を決められなかった。適宜廃棄手続きが必要となろう。
「描かれた神戸、写された神戸」1,000件以上	・一般図書、大型画集など	・最終的に目標点数には至らなかったが、リニューアルオープンに合わせて、図書の配架、情報コンテンツの公開を実施できた。	<b>【情報コンテンツ】</b>
「描かれた神戸、写された神戸」1,000件以上	・カフェ:当館で過去に開催した展覧会図録、雑誌、大型画集など	・最終的に目標点数には至らなかったが、リニューアルオープンに合わせて、図書の配架、情報コンテンツの公開を実施できた。	・リニューアルオープンに合わせて情報コンテンツを公開したが、一部内容が不十分な箇所が見受けられる。コンテンツの更新方法、手続きのルールを定められなかったことも要因と考えられる。また、コレクション検索では目標点数に至らなかったため、引き続き、館内での協力を求め、早急に充実させていく必要がある。
「描かれた神戸、写された神戸」1,000件以上	・体験学習室:子供向けの図書	・最終的に目標点数には至らなかったが、リニューアルオープンに合わせて、図書の配架、情報コンテンツの公開を実施できた。	・リニューアルオープンに合わせて情報コンテンツを公開したが、一部内容が不十分な箇所が見受けられる。コンテンツの更新方法、手続きのルールを定められなかったことも要因と考えられる。また、コレクション検索では目標点数に至らなかったため、引き続き、館内での協力を求め、早急に充実させていく必要がある。
「描かれた神戸、写された神戸」1,000件以上	なお、近・現代美術に関する展覧会図録は、小磯記念美術館、神戸ゆかりの美術館に移管(予定)	・最終的に目標点数には至らなかったが、リニューアルオープンに合わせて、図書の配架、情報コンテンツの公開を実施できた。	・リニューアルオープンに合わせて情報コンテンツを公開したが、一部内容が不十分な箇所が見受けられる。コンテンツの更新方法、手続きのルールを定められなかったことも要因と考えられる。また、コレクション検索では目標点数に至らなかったため、引き続き、館内での協力を求め、早急に充実させていく必要がある。
<b>【情報コンテンツの公開】</b>	<b>【情報コンテンツの公開】</b>	<b>【情報コンテンツの公開】</b>	<b>【情報コンテンツの公開】</b>
コレクション検索:284件	コレクション検索:284件	<b>【情報コンテンツの公開】</b>	<b>【情報コンテンツの公開】</b>
神戸の歴史マップ:195件	神戸の歴史マップ:195件	<b>【情報コンテンツの公開】</b>	<b>【情報コンテンツの公開】</b>
描かれた神戸、写された神戸:1,085件	描かれた神戸、写された神戸:1,085件	<b>【情報コンテンツの公開】</b>	<b>【情報コンテンツの公開】</b>

## 2-2-01-04 体験学習室

### P課題と目標

#### 【前半期】

(ハード面)事前計画のレイアウト概要に沿って、11月のリニューアルオープン時に、教育普及事業の場として活用できるような状態にする。そのための教材、器材を準備、購入、点検するとともに、展示教材の解説マニュアルを作成して、学習支援交流員に配布し、教材の説明ができるように準備を行う。  
(ソフト面)体験学習室の運営は、学習支援交流員の活動に負うところが大きいため、これまでのワークショップの見直しや新規ワークショップの立ち上げへの協力を行う。

#### 【後半期】

リニューアルオープン後は、教育普及事業の場として「子供から大人までが楽しめる」ワークショップを定期的に行えるように交流員への協力、アドバイスをを行う。教材、資材、子供向け書籍の維持管理を行う。

### D実施内容

#### 【教育普及事業】

実施期間:2019/04/02-2020/02/23

ワークショップ参加者延べ417名、体験学習室での来館者案内延べ421名(事業実績)

詳細は、別紙「令和元年度:普及事業一覧(3.交流員)」を参照。

#### 1.実施ワークショップ内容・回数

- ・紙コップで銅鐸作り、コースター作り 2回
- ・ザビエルの生涯紙芝居上演、巻物作り 3回
- ・伊能忠敬の紙芝居上演、浮世絵摺り 2回
- ・「浮世絵摺り師に挑戦」浮世絵摺り・乾拓 6回
- ・尼崎市立文化財収蔵庫ボランティア見学に際しての総合ワークショップ 1回
- ・「乾拓をしてみよう」 4回

#### 2.体験学習室の案内 10回

## B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態) 自己評価

### 自己評価の詳細 プラス面

- ・体験学習室が稼働した11月2日のリニューアルオープンから2月23日までのわずか114日間で、ワークショップ参加者417名、体験学習室での案内421名という利用者数を数えたのは大きな成果である。
- ・ワークショップ参加者のほとんどが、歴史やものづくりに興味を持ち、博物館の体験学習室の場を利用して、作る楽しみ、歴史を学ぶ楽しみを得ることに、満足して帰られたことはたいへん喜ばしい。当館からのFacebook(11/3、11/13、11/20、1/15)では、参加者が熱心に学び、作り、笑顔となっている様子を発信できた。
- ・「子供から大人までが楽しめる学習室」をコンセプトとして、特に幼児から小学生までの年齢層に「博物館に親しんでもらう」ことを大きな目標としている。各々が自由に、楽しく学べる場として機能しており、子どもたちだけでなく、大人の方々にも楽しく過ごしてもらえる場を提供できている。
- ・長い壁面を活かし、わかりやすくイラストを駆使し、新規導入した歴史年表も好評である。さらに新たなコンテンツ充実に向けて、開発を進めていきたい。

### 自己評価の詳細 マイナス面

- ・前半期のソフト面での目標に、積極的・意欲的に取り組むことができなかった。学習支援交流員の活動はあくまでもボランティア活動であるため、体験学習室の案内やワークショップの実施は、学習支援交流員の活動意欲次第となっている現状がある。
- ・現状での活動は、ワークショップを火曜日午後、各月の第2土曜日と第4日曜日のうち、可能な限りの実施としているが、、本来は、開館日には何かしらのワークショップの開催が望ましい。
- ・体験学習室での案内は、当日に活動可能な交流員が随時行っている。現状では、学習室での案内やワークショップができない曜日や時間帯が生じていることは否めない。学芸員とのかかわりのなかで、どこまでできるのか、引き続き検討する必要がある。

## 2—2-02 特別展

評価 A 優れている

### 評価の詳細

今年度の特別展は、リニューアル後のお披露目ともなることから、関連事業も含めて充実した内容となるよう検討を重ね、準備を進めた。リニューアルによるゾーニング変更に伴い、運営体制・方法の見直しを図ったが、戸惑いを覚えた来館者も多く、引き続き改善の検討が必要である。また、再開館に伴い導入した大学生料金の減額、高校生以下の無料化については、必ずしもこの層の入館者比増には結びついていない。広報展開も含めた、なんらかの工夫が必要であろう。開館時間延長については、1時間当たりの入館者数が10人に満たない時間帯もあることから費用対効果の点で再検討を要する。「神戸市立博物館名品展」については関心も高く、広報展開も奏功し、平成20年度に実施した館蔵名品展との比較では2倍以上の来場者があり、満足度も高い評価が得られた。「建築と社会の年代記」については、入館者数の伸びにくい時期でもあり、想定の9割弱にとどまったが、特別協力による協賛金もあったため収支バランスは維持することができた。バラエティに富んだ質の高い資料や作品をふんだんに展示したことで資料・作品に対する来館者の満足度は高かった。ただし、出品点数が1,000点弱に及んだことから、作品・資料が隙間なく配置された展示室は観覧者にとって良好な鑑賞環境とはいえなかった。同様の理由で図録も大部となり、この2点に関する満足度は低い評価にとどまっている。展示室の規模に応じた適正な出品点数を考慮すべきであった。一方、毎週実施した多様な関連事業に関しては、高い関心が寄せられ、多くの事業でシャトルバスを運行し、来館者の関連他館への移動の利便性向上を図るなど、新しい事業モデルを創出できた点は高く評価される。「コートールド美術館展」については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、開催延期を余儀なくされている(※5月21日中止決定)。

リニューアル期間中の取り組みとして協力した台湾の国立故宮博物院南部院區での「交融之美 神戸市立博物館精品展」は、先方との商習慣や制度等の違いからいくつかの課題が生じたが、多数の来館者を得られ、世界的に当館をアピールする絶好の機会となった。

### 2—2-02—01 交融之美 神戸市立博物館精品展(国立故宮博物院南部院區)

#### P課題と目標

輸送・展示作品の保全を完全にした上での、予定通りの展覧会の開催。

当館の使命に合致し、入場者にも満足 of いく展示内容構築への協力。

担当学芸員による学術協力の実施。

#### D実施内容

【展覧会名】 交融之美 神戸市立博物館精品展(国立故宮博物院南部院區[以下「故宮南院」と略記])

【会 期】 2019/6/6(木)–9/8(日) [前期]6/6(木)–7/21(日) (94件) [後期]7/26(金)–9/8(日) (95件)

【会 場】 国立故宮博物院南部院區【共同主催】 国立故宮博物院、神戸市立博物館

【入場料】 設定せず(常設展示とともに観覧可能)【総入場者数】 170,641人

【展示概要】16世紀後半からはじまる日本・中国・西洋の情報、モノ、そして視覚芸術の「交融」に焦点をあてる。神戸市立博物館から155件が出品される他、国立故宮博物院をはじめとする内外の博物館所蔵の関連作品が約25件展示。

【関連事業】 7/20 館際合作工作坊 (当館学芸員をはじめとする内外の研究者によるシンポジウム) 詳細は別紙一覧表参照。

【工 程】

・4/15 日台双方で報道解禁

・5/13–17 当館で検品・梱包作業

・5/26•27 当館→故宮南院間の出品作品(重要文化財1件を含む155件)輸送

・5/30–6/5 故宮南院S203・S101室にて開梱・点検・展示作業。S204室前で神戸市広報用のグラフィック・ウォール設置

・6/6 開会式。7/21まで、重要文化財狩野内膳筆「南蛮屏風」をはじめとする、前期展示開始

・7/20 故宮南院集賢廳でシンポジウムを開催。聴衆は100名超。

・7/22–25 展示替え作業

・7/26–9/8 後期展示

・9/9–10 撤去・点検・梱包作業

・9/12 税関検査

・9/13–15 故宮南院・当館間の輸送作業

・9/18–20 検品・収納作業。全作品の無事返却を確認

### 自己評価

#### A 優れている

#### 自己評価の詳細 プラス面

この展覧会では、16世紀後半から始まる南蛮交易、17世紀からのオランダおよび中国との交易の諸相と、これに触発された日本美術の多様化を軸に、日本・中国・西洋の「交融」ぶりを紹介したが、当館から出品された155件のみではなく、台湾の国立故宮博物院と台湾国立歴史博物館、オランダのアムステルダム国立美術館とプリンセンホフ美術館からも計25件の作品資料が出品され、東西文化交流をテーマにした展覧会としては近年まれに見る規模と内容を実現できた。夏休み中の期間中で、しかも無料観覧日が多く設定されていたとはいえ、当館の南蛮美術を初めとする美術・古地図コレクションが17万人以上に人々の目に触れたことは、画期的なことである。

展覧会場の設計とデザイン、図録の編集は故宮南院の主導のもと行われたが、当館の担当学芸員も作品解説などを中心に積極的に参画できた。また、故宮の研究紀要ともいふべき『故宮文物月刊』および本展図録の主論考を当館学芸員で執筆分担できたことも画期的であった。台湾国内での研究者の関心も高く、7月に行われたワークショップでは100人以上の聴衆が来場し、活発な意見交換が行われたことも、意義深いものがあった。

当館の名品展が、故宮南院という国際的にも注目集める博物館で華々しく開催できたことは、今後の当館の世界的な認知度を高める上で、大きな礎になるものと期待できる。

#### 自己評価の詳細 マイナス面

昨年度の自己評価でも触れたように、ワシントン条約(CITES)の関連で象牙・黒檀・朱檀の軸首のある軸装作品35点について、換装作業を余儀なくされた。帰国後この35点については本来の軸首に再換装作業を複数年度で実施する予定。

当館のような地方公立館が海外でこのような大規模な所蔵品展を行った例は決して多くない。4月の報道解禁を機に資料提供を行い、新聞2誌が掲載した。しかし、このことに注目し評価した業界関係者、そして神戸市関係者がごく限られてしまったことは残念である(S204室前で行った神戸市の広報プロモーションもどれだけの効果があったか、確証はない)。

展覧会の実務面では、日台双方の輸送業者の決定が遅れ、その後の諸々の準備作業のための時間的な余裕がなくなってしまったことが挙げられる。実際に形として残る例として悔やまれるのが、図録の色校正を当館が行うことができず、図版の色再現性が十分でない成果品となってしまった点である。当館が過去に行ってきた海外展の経験から、遅くとも半年前までには輸送業者の決定を、故宮側に強く働きかけるべきであったが、日台間の商慣習や制度上の違いを乗り越えて問題を解決することの困難も実感させられた。

## P課題と目標

・リニューアルにふさわしい名品展を実現する  
 ・講演会、イブニングレクチャー、ワークショップを通して、展覧会の魅力を積極的に発信する  
 ・予算書の数値(収支、入館者数、有料率)の達成

## 【予算書想定】

入館者数:35,000人(有料率65%、22,750人)

・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上をはかる。

目標満足度83以上

## D実施内容

【展覧会名】リニューアル記念「神戸市立博物館名品展—まじわる文化、つなぐ歴史、むすぶ美—」

【会 期】 2020/11/2-12/22 44日間 (前期:11/2-11/24 後期:11/26-12/22)

【会 場】 特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2、回廊、コレクション展示室、神戸の歴史展示室

【主 催】 神戸市立博物館、神戸新聞社

【後 援】 NHK神戸放送局、サンテレビジョン、ラジオ関西、Kiss FM KOBE

【協 賛】 公益財団法人日本教育公務員弘済会兵庫支部、一般財団法人みなと銀行文化振興財団

【入場者数】 24,165人(有料率55.98%、13,527人、平均537人／日、最高1,117人・12/21)

※目標入場者数35,000人(達成率69%)

【展示概要】 リニューアルオープンを記念し、7万点のコレクションから厳選した151点を展示。

【関連事業】 詳細は、別紙一覧表を参照

【図録】 521冊(購入率2.1%)(※名品カタログとして通年販売のため、会期中の目標売上数・達成率の設定なし)

【音声ガイド】 なし

【収支バランス】 赤字

【アンケート満足度】 展覧会満足度85.26 スタッフ対応88.98 展示のみやすさ83.01 解説のわかりやすさ77.05 展示室の環境

81.98 展示品の質86.36 図録80.05

【リニューアル後の新たな取り組み】

- ・高校生以下の入場料無料化、大学生は一般料金の半額化:  
対象者合計3,134人 (内訳)小・中学生1,829人 高校生295人 大学生1,010人 計:3,134人/24,165人=12.97%
- ・夜間開館延長:毎週土曜日は21時まで開館(通常開館日は17時まで)  
会期中の土曜日全8日、当該時間の入場者合計880人  
(内訳)17時～18時:446人 18時～19時:257人 19時～20時:118人 20時～21時:59人

## B 標準(求められる能力や役割を自己評価果たしている状態)

## 自己評価の詳細 プラス面

・リニューアルオープンにふさわしく、全館を活用した名品展を開催することができた。平成20年に同様に開催した「コレクションの精華」展は10,691人(38日間)であったことを踏まえると、今回は①リニューアルオープンへの関心の高さ、②11年ぶりの当館での名品展、③神戸新聞社との実行委員会形式による広報といった複合的な要因で来館者増につながったと考えられる。  
 ・展覧会にかかる諸業務を若手～中堅学芸員が主体となって進めたことで、展覧会をつくる経験を学ぶ場になった。

## 自己評価の詳細 マイナス面

・リニューアルに伴う運営方法の変更(運営ポスト増、土曜日は21時まで開館)等で、展覧会開催に要する必要最低限の経費が増加している。本展のような自主企画展の場合、収支バランスを黒字化するために求められる収入・入場者数と、現実的な収入・入場者数に乖離が生まれてしまう。  
 ・市の施策として、リニューアル後の土曜日は21時まで開館しているが、夜間入場者数はきわめて低く、費用対効果が悪い。  
 ・リニューアル後の運営方法変更に伴い、各展示室の入口で半券提示が必要となったが、入場者からは何度も提示することへの改善を求める声が多く寄せられた。  
 ・アンケートは来館者の大半を高齢者が占めていた。展覧会をつくる側の若手～中堅学芸員にとっては見やすい展示であっても、高齢の来館者にとっては暗く、文字が小さく、展示資料が遠くて見づらいなど、課題が残った。また、リニューアル後の館内動線について、わかりづらいとの指摘も寄せられた。

## P課題と目標

・展示会の趣旨を展示の構成に反映する(展示会場、図録)  
 ・建築と社会との関わりを発信する講演、講座、ワークショップなど関連事業の開催  
 ・予算書の数値(収支バランス、入館者数、有料率、図録購入率、グッズ購入平均単価)の達成  
 【予算書想定】  
 入館者数:25,800人(有料率60%、15,480人)  
 図録購入率:5%  
 グッズ購入平均単価:平均単価150円  
 ・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る  
 満足度:83以上

## D実施内容

【**展覧会名**】「建築と社会の年代記―竹中工務店400年の歩み―」  
 【**会 期**】 2020/1/11(土)–3/1(日) 44日間  
 【**会 場**】 特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2、ギャラリー  
 【**主 催**】 神戸市立博物館、神戸新聞社、朝日新聞社  
 【**後 援**】 サンテレビジョン、ラジオ関西、Kiss FM KOBE  
 【**特別協力**】 竹中工務店、竹中育英会、竹中大工道具館、ギャラリーエークワッド  
 【**協力**】 世田谷美術館  
 【**入場者数**】22,941名(有料率39.54%、9,071人、平均513人／日、最高1124人・2月23日)  
                   ※目標入場者数25,800人(達成率88.9%)  
 【**展示概要**】竹中工務店とその前身・工匠竹中家が手がけた多様な建築を、建築と人の関わり方という視点で8つの「かたち」から紹介。建築資料(竣工写真、模型、図面等)や、パンフレットや絵画等を展示。  
 【**関連事業**】詳細は、別紙一覧表を参照  
 【**図録**】1,076冊(購入率4.73%)  
 【**収支バランス**】黒字  
 【**アンケート満足度**】展覧会満足度81.39 スタッフ対応78.22 展示のみやすさ74.06 解説のわかりやすさ74.05 展示室の環境77.29 展示品の質83.27 図録76.27  
 【**リニューアル後の新たな取り組み**】  
 ・高校生以下の入場料無料化、大学生は一般料金の半額化:  
   対象者合計2,209人 (内訳)小・中学生1,156人 高校生347人 大学生706人 **計2,209人/22,941人=9.63%**  
 ・夜間開館延長:毎週土曜日は21時まで開館(通常開館日は17時まで)  
   会期中の土曜日全8日、当該時間の入場者合計530人  
   (内訳)17時～18時:253人 18時～19時:160人 19時～20時:86人 20時～21時:31人

## 自己評価の詳細 プラス面

・実行委員会構成員と竹中工務店のスタッフが、展示会の構成、出品資料の選定、展示プラン、図録の編集、広報、関連事業の実施について、密度の高い創造的な打ち合わせを実施しつつ事業展開したことで、これまで博物館で実施したことのない企業連携型の充実した内容の展覧会となった。  
 ・実物資料、写真、動画など、約1000点に及ぶ多種多様な資料を展示し、歴史的な流れの中で多くの建築物と技術の進歩、建築の社会的な役割などを多角的な視点で紹介することができた。  
 ・「神戸の近代建築」に特化した展示スペースを設けたことで、旧居留地に存在する歴史的建造物である当館での開催が意義深いものとなった。  
 ・入場者数、図録購入率、アンケートの満足度など、展覧会後半の新型コロナウイルス感染症拡大の情勢にあって、ほぼ目標数値を達成することができた。また、協賛金があったことによって、収支も黒字となった。  
 ・毎週、多様な関連事業を実施し、定員を超える参加希望者を得、好評であった。とりわけ、地域の歴史や景観の変化を見つめ直した「100人の神戸旧居留地撮影会・交流会」、「復興をとげた歴史的建造物巡り」は意義深く、博物館の新しい事業モデルを導入、創出した。  
 ・竹中大工道具館と連携し、土・日・祝日に両施設間を結ぶシャトルバスを運行・相互割引を実施することで、観覧者が2館を訪れて展覧会を鑑賞するための利便性をはかり、建築に関する、各時代に応じた知識をさらに補うことができるという付加価値を提供した。これは、海側と山側に離れた施設を結びつける点でも有意義であった。

## 自己評価の詳細 マイナス面

・有料率は、目標数値の達成率66%にとどまった。  
 ・竹中工務店担当者との出品資料、作品の調整にかなりの労力を割くこととなり、出品リストおよび会場図面の確定が日程的に厳しくなった。この結果、図録編集にも厳しい日程管理が発生することとなり、担当者の大きな負担となった。  
 ・図録編集の日程が厳しく、キャプションや展示パネルについて十分な確認ができなかった。また、会期中の修正が多数発生した。これらが影響したためか、アンケートにおいて、展示のみやすさ、解説のわかりやすさ、展示室の環境、図録の満足度がやや低くなった。  
 ・講演会において、聴講希望者が多かったため整理券配布時に長い列が形成され、かつ長時間並ぶ必要があり、聴講希望者から不満の声があった。また、定員超過のため、会場まで足を運びながら聴講できない方々がいらっしやった。

## P課題と目標

- ・分かり易い展示導線と案内掲示の設定
- ・効果的な監視・誘導體制の構築
- ・展覧会の魅力を周知する広報展開
- ・リニューアルオープンに伴う開館時間や料金体系の変更に関する十分な周知活動

## D実施内容

- 【展覧会名】コートールド美術館展 魅惑の印象派  
 【会 期】2020/3/28(土)-6/21(日)74日間  
 【会 場】特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2  
 【主 催】神戸市立博物館、朝日新聞社、NHK神戸放送局、NHKプラネット近畿  
 【後 援】ブリティッシュ・カウンシル  
 【協 賛】凸版印刷、三井物産、日本教育公務員弘済会兵庫支部  
 【展示概要】コートールド美術館が所蔵する、印象派及び後期印象派の名品を展示。油彩51点、彫刻9点、資料24件  
 【予定関連事業】  
 ①講演会:3/28「サミュエル・コートールド:そのコレクションとビジョン」(コートールド美術館長 エルンスト・ヴェーゲリン)／6/6「セザンヌの思想と芸術」(京都工芸繊維大学准教授 永井隆則)  
 ②イブニング・レクチャー:毎週土曜日17時- 17時30分  
 ③ジュニアミュージアム講座:4/26「手作りチューブ入り絵具」／6/7「印象派で作る砂絵コースター」  
 ④「親子鑑賞会」:5/5  
 【図録】 24.2×24.3×2.3cm 266頁 価格2,500円  
 【グッズ】 ポストカード、A5ダブルクリアファイル、B6変形サイズノート、Tシャツ、ミニトート、プレイングカード、ミニワイン、ショートブレッドほか  
 【音声ガイド】ナビゲーター三浦春馬、17件の解説とエピソードで構成  
 【その他】新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、3月28日の開幕を延期した。  
 ※5月21日付で開催中止。

## 自己評価の詳細 プラス面

- ・神戸展独自のアニメーションCMを制作した。約5秒のアニメーションを3種類制作し、NHKの協力のもと編集。デザインしたキャラクターは、神戸展オリジナルの子供鑑賞ガイドに反映した。
- ・展覧会会場設計に参加でき、コートールド美術館の学芸員からも賞賛された美しい展示会場となった。

## 自己評価の詳細 マイナス面

- ・開催を延期した。

## 2-2-03 企画展

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 「企画展」と称した形態の展覧会は今年度開催できていない。リニューアル後は「コレクション展示」との併用形態での館蔵資料の公開展開を図っていくこととなる。  
令和2年度、令和3年度の「企画展」の企画(案)が1件ずつ提示され、それぞれの開催に向けた準備が粛々と進められているところであり、継続的な業務の遂行が望まれる。

### 2-2-03-01 企画展

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

#### P課題と目標

- 令和2年度開催予定の企画展について、企画を決定し、準備を進める。
- 令和3年度以降の企画展の方向性を定める。

#### D実施内容

- 本年度はリニューアル工事に伴う休館期間があったため、企画展の開催はなし。
- 7/3学芸会議において、①令和2年度冬(2021/2/6-3/28)②令和3年度以降に開催する企画展案を募集。2件の展覧会案が提出され、下記のとおり次年度以降の計画が立てられた。  
令和2年度:2021/2/6-3/28 特別展示室1「神戸源平巡り—『平家物語』の舞台を訪ねて—」  
令和3年度以降:日程詳細未定 特別展示室1「近代地図(仮)」
- 計画決定後、企画立案者を中心に、館蔵資料調査や予算編成など、開催に向けた準備を順調に進めている。

#### 自己評価の詳細 プラス面

- 次年度以降の企画展案を募集し、計画を立てることができた。
- 担当学芸員から積極的な立案があり、協議の結果、企画展覧会の開催へとつながることができた。

#### 自己評価の詳細 マイナス面

- 企画案の募集に対して、企画展案の提出が2件に留まった。さらに、積極的な立案があれば望ましい。

## 2-2-04 特別利用等

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

**評価の詳細** 令和元年度は特別利用に関する内規が整備され、円滑な事務手続きと担当者の負担軽減が実現できたことは一定の前進であった。申請から特別利用・画像利用／提供にいたる手続きも概ね迅速かつ円滑に行われたものと評価できる。画像提供業務における利用料収入の低下傾向が認められる。社会ニーズの変化を見守りながら、適切な対応を重ねていかなければならない。より多くの利用を促進するための新たな取り組みを模索する必要があるのかもしれない。館外貸出の件数はリニューアル工事によって制限をかけていたため、大幅に減となったが、手続き自体は円滑に行うことができた。台湾への主要作品の貸出など大きな成果を上げた事例もあった。館外貸出についても、令和元年度より内規が整備された。3ヶ月前の書類提出や展示室環境に関する情報の提供も借用館側に義務付けたので、資料保存の観点からも有効な運用が期待される。

2-2-04-01 特別利用・画像利用・画像提供	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<b>P課題と目標</b> 申請及び申込に対する手続きを迅速かつ適切に行う。 特に特別利用においては、早期の内規の整備と、これに即した、適切な処理を行う。	<b>自己評価の詳細 プラス面</b> <b>【特別利用】</b> 申請者からの申請を受け次第、適切かつすみやかに手続きを概ね進めることができた。  <b>【画像利用】</b> 申込者からの申込みを受け次第、適切かつすみやかに手続きを概ね進めることができた。  <b>【画像提供】</b> ・画像利用料を用いて館蔵資料の新規撮影を行うことができた。  <b>【内規整備】</b> 検討の結果、内規を整備し、適切に運用を進められている。	<b>自己評価の詳細 マイナス面</b> <b>【画像提供】</b> ・一昨年度、昨年度までの報告と比べて、利用料金が減少している。
<b>【平成30年度実績】</b> ・特別利用 36件 1,976点 ・画像利用 175件 711点 ・画像提供 364件 562点	<b>D実施内容</b> <b>【特別利用】</b> 申請 56件614点 ・熟覧 25件193点／模写 0件0点／模造 1件1点／撮影 20件187点／その他 3件21点 ※熟覧・模写・模造・撮影・その他は、重複を含む件数点数。 ・館外貸出 7件212点(詳細は、シート「2-04-02」参照)  <b>【画像利用】</b> 申請148件 1,435点 ア) 国、地方公共団体が公共の目的でその事業の用途として利用するため申請するとき。／32件113点 イ) 学校教育法第1条に規定する学校(大学は除く。)の教科書、学校(大学は除く。)が作成する教材の用途として利用するとき。／15件34点 ウ) 博物館が調査研究、展示、広報等の用途として利用するため申請するとき。／48件957点 エ) 営利を目的としない個人、団体が、営利を目的としない学術書(発行部数1,000部以下)、又は学術雑誌、調査報告書等もつぱら学術研究の用途として利用するとき。／52件328点 オ) その他、神戸市教育委員会が特に必要と認める利用のとき。／1件3点  <b>【画像提供】</b> 351件 563点 イメージアーカイブ登録 580件  <b>【内規整備】</b> 特別利用にかかる内規の整備は平成30年度より取り掛かり、2020/6/14付で「特別利用の取り扱いについて」を定めた。これ以降に依頼を受けた特別利用は本内規に基づき、資料の状態等の条件と必要書類を確認の上、手続きを進めている。	

## P課題と目標

申請及び申込に対する手続きを迅速かつ適切に行う。  
 早期の内規の整備と、これに即した、適切な処理を行う。

【平成30年度実績】  
 7件 149点

## D実施内容

【貸出先・点数】 7件 212点

- ・市長室秘書課  
 神戸市役所1号館15階第2応接室(4/1-3/31) 西村功「ベンチの夫婦(ロンドン)」 1点
- ・一般社団法人 神戸港振興協会(神戸海洋博物館)  
 常設展示「平清盛と大輪田の泊」(4/1-3/31) 西村公朝「平清盛座像」 1点
- ・台湾 国立故宫博物院南部院区  
 交流展「交融之美 神戸市立博物館精品展」(6/6-9/8) 180点  
 重要文化財 狩野内膳筆「南蛮屏風」(本展詳細は、シート「2-02-01」参照)
- ・広島県立美術館  
 「広島浅野家の至宝—よみがえる大名文化—」(9/10-10/20) 熊斐「一路功名図」 1点
- ・中之島香雪美術館  
 「交流の軌跡—初期洋風画から輸出漆器まで—」(10/12-12/8) 西洋風俗図屏風(6曲1双)等 17点
- ・鳥取市歴史博物館  
 「因幡×豊臣～豊臣政権と因幡の大名～」(11/7-11/24) 垣屋文書(寄託) 9点
- ・国立新美術館  
 「古典×現代2020—時空を超える日本のアート」(3/11-6/1) 鶴州「木蓮に叭々鳥図」等 3点  
 ※新型コロナウイルス感染症予防対策による臨時休館のため、開幕日未定。

## 【貸出にかかる内規整備】

館外貸出にかかる内規の整備は平成30年度より取り掛かり、2020/6/14付で「特別利用の取り扱いについて」を定めた。これ以降に依頼を受けた館外貸出は本内規に基づき、資料の状態等の条件と必要書類を確認の上、貸出手続きを進めている。

## 【館外貸し出しの再開】

2020/6/21発にて再開通知を送付、11/6以降再開

## 自己評価の詳細 プラス面

- ・2019年11月までのリニューアル休館に伴い、貸出先は多くないが、それぞれの貸出手続きを迅速に執り行えた。
- ・台湾での「交融之美」展へ180点(重文1件2点含む)を貸し出したことは、リニューアル休館中であるからこそ実現したものである。
- ・貸出にかかる内規を整備したことで、当館として一定の事務手続きを定めることができた。

## 自己評価の詳細 マイナス面

- ・リニューアル休館のための資料の貸出制限をかけたが、事前周知の不足により貸出依頼を断らざるを得ないケースが平成30年度以前から複数件発生した。

## 2-2-05 広報

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

**評価の詳細** 11月2日からのリニューアルオープンに向けて、市長会見をはじめ、特別な広報展開を行った。これにより、当該情報が広く周知され、多くの媒体で取り上げられることとなった点は評価される。また、リニューアルにあわせて、ホームページのデザインを一新し、館蔵品情報の公開機能を強化した。外部委託により、スマホなどへの対応も可能になり、安全性も向上した点、業務の効率化が図れた点は大きな成果といえる。また、博物館だよりについても紙面構成を刷新し、現代的なデザインに改めたことで、より読みやすい紙面となった。一方で、リニューアルオープンに間に合わせる事が最優先されたため、全般的に広報事務上のルール作りが後手に回ってしまった点は反省点である。ホームページに関しても、公開データに分野ごとの精粗があり、SNSの発信数も伸び悩むなど、今後、内容の充実を図っていく必要がある。また、正確な情報提供と情報のチェック機能の面においては課題が残る。

2-2-05-01 ホームページ		B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	自己評価
<b>P課題と目標</b> 新しい公式ホームページの10月下旬までの一般公開。 博物館のリニューアルにふさわしい、刷新されたレイアウトとコンテンツの提供。 コレクション検索における「公開資料」全件の公開。 迅速かつ適切な内容更新。	<b>D実施内容</b> 【ホームページリニューアル】 ・11月のリニューアルオープンに向けて、博物館ホームページのリニューアルを実施。5月より業者と打ち合わせを重ね、10/21に公開となった。 ・従来は博物館職員がHTMLで全ページを製作、編集、公開しており、業務上の負担が大きかった。今回のリニューアルではデザイナーによって全ページのデザインを一新し、ホームページの運用・保守業務を外部委託した。なお、一部コンテンツについてはCMSを導入し、当館職員がリアルタイムで更新可能となっている。 ・スマホ、タブレットの表示対応が可能となった。 ・主なコンテンツは「展覧会」「常設展示」「コレクション」「教育・学習」「利用案内」「当館について」「お知らせ・イベント」からなる。 ・「コレクション」では文化庁の文化遺産オンラインのAPIを活用し、作品の高精細画像と解説テキストを283点公開している。	<b>自己評価の詳細 プラス面</b> ・当初予定通り、リニューアルオープン前にホームページの公開を実現できたことにより、デザインの刷新、スマホ・タブレットへの対応、セキュリティ向上(SSL対応)など、従来のホームページよりも視認性・操作性・安全性が向上した。 ・更新、修正作業を委託することで、職員の負担軽減を図ることができた。 ・文化遺産オンラインAPIを活用したことで、当館独自で公開用サーバを立てることなく、館蔵品の高精細画像とテキストを公開することができた。	<b>自己評価の詳細 マイナス面</b> ・リニューアルする各ページの担当者が多岐にわたり、テキスト・画像等の必要素材の集約と公開に向けた統一作業、委託業者との調整は膨大な時間を要した。 ・ホームページリニューアル担当者は複数名いたが、業務分担が適切に行われなかった。契約事務手続き、公開に向けた集約作業は特定の職員に負担を強いるものであった。 ・リニューアルオープンに向けた公開を優先したため、「コレクション」ページでは項目が立っているながら、公開画像が0点(「近世の神戸」「神戸と近代美術」)や、きわめて少ない(「中世の神戸」8点、「開国・開港期」6点、「近代の神戸」4点、「江戸時代の洋学」3点)ままの項目がある。 ・何を、いつ、誰が、どのような手続きで公開、更新依頼(または博物館職員が更新)するか、ルール化されていない。更新に関する情報共有も適切に行われていない。
<b>2-2-05-02 SNS</b>			
<b>P課題と目標</b> Facebook・Twitter とともに、最低でも92回の発信を目指す。 突発的事象の発生時に迅速かつ適切な情報発信をする。 平成30年度実績:【Facebook】投稿数:84件／いいね数:3,056／1日のオーガニック平均リーチ数510／フォロワー:3,188人【Twitter】・投稿数:86件／インプレッション数:538,848／フォロワー数:9,178人	<b>D実施内容</b> 【SNS公開計画の策定】 ・Facebookについて、6/12の学芸会議で学芸員に原稿執筆と日程を依頼(全92回)。  【Facebook】(3/26時点) ・投稿数:80件／いいね数:3,190／1日のオーガニック平均リーチ数:(295+328)÷2=311.5／フォロワー:3,369人 ・リーチ数が多かった投稿 7/10【新しいミュージアムカフェでくつろいでみませんか?(昭和レトロ編)】:10,517 11/1【リニューアル記念神戸市立博物館名品展、開会式】:8,071 4/17【台湾國立故宮博物院南院で展覧会!】:3,090  【twitter】(3/26時点) ・投稿数:64件／インプレッション数:485,698／フォロワー数:9,876人 ・特にいいね数が多かった投稿: 1/22「2月11日(火・祝)午前10時～長田区の新長田勤労市民センター別館ビブレホールで「チョコレートで作る卑弥呼(ひみこ)の鏡」を開催。」:132 7/10「1階無料ゾーンに、新しく生まれ変わったミュージアムカフェが誕生!」:130 12/26【次回特別展のお知らせ「建築と社会の年代記―竹中工務店400年の歩み―」】:64	<b>自己評価の詳細 プラス面</b> ・コロナウイルス感染症対策のため、イベントの中止、展覧会の開幕延期が発生したが、迅速に情報を発信することができた。 ・平成30年度より、フォロワー数が増加した。	<b>自己評価の詳細 マイナス面</b> ・発信数が目標に満たなかった。 ・発信数減少の影響か、平均リーチ数やインプレッション数が昨年度より低下した。

2-2-05-03 印刷物製作(博物館だより・展覧会予定等)及びその他広報活動(取材・掲載対応)	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p><b>P課題と目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインを一新した博物館だよりを秋、春2回発行(116号は9月30日、117号は3月下旬)。</li> <li>・カレンダーの発行(令和元年度9月30日、令和2年度3月末発行)</li> <li>・取材申込みに対して適切対応し、情報発信に努める。</li> <li>・広報誌など紙媒体のツールも利用し情報発信に努める。</li> </ul>	<p><b>D実施内容</b></p> <p>【印刷物制作】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館だより116号(2019秋号)</li> <li>・博物館だより117号(2020春号)</li> <li>・博物館カレンダー(2019後半)</li> <li>・博物館カレンダー(2020)</li> </ul> <p>【取材申し込み対応・メディア・web掲載対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙媒体(雑誌・情報誌・新聞・広報誌等)での取材対応 神戸市関係1件、神戸市以外の取材5件</li> <li>・紙媒体(雑誌・情報誌・新聞・広報誌等)での掲載対応 神戸市関係49件、神戸市以外57件</li> <li>・web掲載対応 神戸市関係7件、神戸市以外28件</li> <li>・その他(博物館チラシ配架、看板設置等) 神戸市関係7件、神戸市以外2件</li> </ul>	<p><b>自己評価の詳細 プラス面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館だよりについて、リニューアルオープンを期して、116号から従来の横書きを縦書きに変更し、読みやすいレイアウトに変えた。</li> <li>・カレンダーの発行は2回行った。特に2回目の発行に関しては、新型コロナウイルス拡大の影響でスケジュールの変更が編集中に重なったが、予定通り発行した。</li> <li>・取材・広報申し込みは、リニューアルオープン前後に集中し、対応は困難を極めたが、担当者間で調整を行い、円滑な取材対応を行った。その結果、報道機関に大きく取り上げられ、リニューアルオープンの広報に繋げることができた。</li> </ul> <p><b>自己評価の詳細 マイナス面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館だよりの編集について、語句や年号、数字の表記方法などが統一できていなかったため、約200か所の訂正を生じ、校正作業に時間がかかった。</li> <li>・担当者間の確認・情報共有が徹底しておらず、記事依頼や校正依頼のメールを見落とすことが2〜3度生じた。</li> <li>・掲載先へ提供した情報内容に不足があり、掲載内容に不備を生じたことがあった。</li> </ul>

## 2-2-05-04 リニューアルオープンに向けての広報展開

2-2-05-04 リニューアルオープンに向けての広報展開	自己評価	A 優れている
<p><b>P課題と目標</b></p> <p>市長会見の開催(8/22) 特に10月からのSNSでの積極展開 リニューアルチラシ第2弾の発行(8/22以前) 京町筋バナー 10/10-12/23 各種取材対応については適切に行う。</p>	<p><b>D実施内容</b></p> <p>【チラシ】 第1弾 10,000部 第2弾 50,000部</p> <p>【SNS】 Facebook 41件(4/1-11/1まで) うち、リニューアル紹介7件 Twitter 35件(4/1-11/1まで)</p> <p>【博物館東西看板、パネル】 2019/3/29-10/9</p> <p>【京町筋バナー】 2019/9/13-12/23</p> <p>【市長会見】 2019/8/22</p> <p>【その他】 広報紙KOBE 令和元年10月号全市版特集 「ひらこう『博物館』の世界 リニューアルオープン直前！市立博物館潜入取材」 青空主義 「神戸新聞コレクション 私のイチ押し」</p> <p>【各種媒体への記事掲載】 雑誌53件、WEB媒体22件、新聞14件、テレビ3件、ラジオ2件、其他媒体6件</p>	<p><b>自己評価の詳細 プラス面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的にリニューアルオープンを広く伝えるため、広報課との緊密な調整を行ったうえで、8/22に予定通り市長会見が行われた。</li> <li>・リニューアル広報担当に留まらず、学芸課の職員全体で、FacebookとTwitterの投稿に取り組んだ。</li> <li>・昨年度作成したリニューアルチラシ第1弾に続き、今年度はリニューアル後の平面図や新設展示室の紹介などより詳細な情報を記載したリニューアルチラシ第2弾の発行を予定通り行い、市長会見で公表した。</li> <li>・リニューアルオープンを広報するため、令和元年10月25日に記者内覧会を開催し、14社15名に参加いただいた。</li> <li>・使用機材の種類と撮影方法に関する媒体側への聞き取りが足りなかったという反省を踏まえ、取材申込書の様式を改定した。</li> </ul> <p><b>自己評価の詳細 マイナス面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取材対応について、使用機材の種類、撮影方法に関する媒体側への事前の聞き取りが足りなかった。</li> </ul>

## 2-2-06 広聴

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

**評価の詳細** リニューアルによる館内ゾーニングの変更に伴い、来館者の観覧環境・導線も大きく変化した。新たなゾーニングの下での効果的な広聴を実現するため、状況把握を要することから、この事業群を評価項目に加えることとなった。今年度は、2回の特別展、および常設展示(神戸の歴史展示・コレクション展示)に関し、それぞれ記入式アンケートによる満足度調査を実施しているが、特別展に対し、常設展示の回収率が極めて低い結果となった。また、特別展に関しても、従来行っていた次回特別展のチケットプレゼントを廃止したため、リニューアル以前の同規模の展覧会に比べ低い回収率にとどまっている。ただし、チケットプレゼントについては、アンケートへのバイアスを生じさせる可能性も否定できないことから、来館者の動向・意向を汲み取る手だてについては引き続き検討を継続する必要がある。

### 2-2-06-01 広聴(展覧会などアンケート調査実施、結果集計)

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

#### P課題と目標

特別展、コレクション展示、1階無料ゾーンを対象としたアンケートを実施。

毎日回収・集計・回覧を実施

#### D実施内容

・11/2のリニューアルオープンより、アンケート用紙・回収箱を設置し、広聴活動を開始。回収した用紙は、日々回収、集計、回覧している。

・「神戸市立博物館名品展」(11/2-12/22)  
2階特別展示室2出口(展覧会順路出口)、1階ホールに用紙・回収箱を設置  
回収枚数:372枚(入館者数:38,882人 ※常設展示のみの入館者を含む) 展覧会の総合評価:85.26

・「建築と社会の年代記」(1/11-3/1)  
1階ホールに用紙・回収箱を設置  
回収枚数:154枚(入館者数:37,048人 ※常設展示のみの入館者を含む) 展覧会の総合評価:81.39

・常設展示(神戸の歴史展示・コレクション展示)のみの期間(12/25-28、3/17-22、3/28-31)  
回収枚数:4枚(入館者数:2,020人)  
※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止のため、3/10-15を臨時休館、3/17-22、28-31の期間はアンケート用紙と回収箱を撤去したため、回収なし。

#### 自己評価の詳細 プラス面

・アンケートにて指摘のあったキャプションの誤字脱字、施設面で不便な箇所、スタッフ対応については、即座に担当者が確認し、必要な対処を講じている。

#### 自己評価の詳細 マイナス面

・チケットプレゼントを廃止したことによるためか、回収枚数が減少した。

## 2-2-07 ミュージアムグッズ開発

評価 C やや劣る

**評価の詳細** 令和元年度はリニューアルにより新しいミュージアムショップがオープンした。その詳細については4-02-02「ミュージアムショップ・カフェ」に譲るが、ここで新しいミュージアムグッズをお披露目することが期待された。当館独自企画・デザインのグッズとしては、新規に製作した「名品展図録」と「神戸の歴史展示ガイドブック」が加わり、いずれも最新の研究成果と新感覚のデザインを盛り込んだ商品として評価できる。ただし、それ以外のステーションナリー類などのグッズ開発が諸般の事情により断念せざるをえなかった。令和2年度には、当館ならではのオリジナルグッズを新規考案・お披露目し、館蔵資料の普及にも努めていく必要がある。

### 2-2-07-01 ミュージアムグッズ開発

自己評価

C やや劣る

#### P課題と目標

リニューアル記念神戸市立博物館名品展に展示が予定されている資料の絵葉書を含め、当館グッズとしてふさわしい製品開発を行う。

#### D実施内容

【グッズの製作】  
絵葉書 3種類(オルテリウス世界図／織田信長像／椿に文鳥図)×800枚、10/31納品

#### 【名品カタログ】

11/2からの特別展「まじわる文化、つなぐ歴史、むすぶ美—神戸市立博物館名品展—」に関連して、名品図録を3,000部発行。当館ミュージアム・ショップで発売。展覧会後も当館の名品図録として発売継続。

#### 【KOBE歴史の旅】

「神戸の歴史展示室」のガイドブック『古代から現代へ KOBE歴史の旅 神戸市立博物館歴史展示ガイド』を初版3000部、11/22発行。当館のミュージアム・ショップなどで発売。

#### 自己評価の詳細 プラス面

- ・11/2からオープンしたリニューアル記念名品展にあわせて、展覧会に出品された資料のグッズを製作できた。
- ・リニューアルに伴って、新しく館蔵資料の名品カタログや「神戸の歴史展示」のガイドブックを製作し、発売することができた。
- ・リニューアルを契機とした新商品の開発・製作は、来館者を対象とするだけでなく、対外的にも博物館リニューアルを強くアピールする一助となった。

#### 自己評価の詳細 マイナス面

- ・グッズの新規開発にかかる十分な時間を割くことができなかったことに加え、予算において留保の必要が生じたため、結果として当該予算を十分には執行できなかった。

## 3. 人々とともに歩む

### 評価 A 優れている

**評価の詳細** 例年のことであるが、社会教育施設としての博物館の学校教育・生涯学習の面で十分な役割を果たしているものと考えられる。休館中であつたにもかかわらず、連携授業に取り組んだ点も大いに評価できる。

新たな取り組みとして未就学児と保護者のための鑑賞会を実施できたことは好ましい。好評だったことを踏まえると今後も継続する取り組みとしていければ良いと考えられる。

長年継続してきた文化庁補助事業は多くの組織と連携した取り組みであつたが、準公金の取り扱い停止という指示のもと、令和2年度以降中止とせざるを得ないのは残念であつた。今後、地域や大学、研究機関などとの連携を模索していくことが望まれよう。

## 3-3-01 普及事業

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

**評価の詳細** 令和元年度は10月までリニューアル工事中のため、普及事業には大きな制約があったが、11月の再開後は着々と本来の事業を順調に実施できるかに思えたが、3月よりコロナウイルス感染予防の観点から中止に至った事業もあった。

「ミュージアム講座」に関しては、今年より再び博物館での開催となったが、音響設備の改善など会場設備のあり方に課題が残されている。また、第5講が中止となったが、このような想定外の事態への対応した参加費のあり方も検討すべきであろう。「未就学児と保護者のための鑑賞会」は好評を博したが、時間設定に改善の余地がある。

文化庁補助事業は令和元年も大きな成果を上げたが、事務的な制約のため令和2年度より文化庁から補助金を利用できなくなった。予算上の制約がある中でも、充実した普及事業を維持できるか、大きな課題となる。

### 3-3-01-01 一般向け普及事業

#### P課題と目標

- ・「ミュージアム講座」「障害者のための鑑賞会」「未就学児と保護者のための鑑賞会」「大人のための浮世絵摺り体験講座」を充実し内容で、円滑、安全に実施する。
- ・定員を上回る応募者を獲得する。
- ・「ミュージアム講座」「浮世絵摺り入門講座」において、参加者の80%以上の好評価を目指す。
- ・「未就学児と保護者のための鑑賞会」において、アンケートを実施し、参加者のご意見をうかがう。

#### 【前年度実績】

ミュージアム講座 6回 411人 参加者の90%以上が好評価  
大人のための浮世絵摺り入門講座 2回37人 参加者の100%が好評価

#### D実施内容

##### 【第24回ミュージアム講座】

会 場:神戸市立博物館 地階講堂

時 間:受付 13時30分- 開講 14時-15時30分 ※初回のみ15時40分まで

定 員:150人

参加人数:合計478名(全4回)

※詳細は、別紙「令和元年度:普及事業一覧(1.一般向け)」を参照。

※3/19に予定していた第5講は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

それに伴い、同日に予定していたアンケート調査を実施できなかった。

##### 【未就学児と保護者のための鑑賞会】

日 時:11/18午前(休館日・事前申込制) (28組68人)

アンケートにおいて90パーセント以上の方に「よかった」「まあよかった」との回答を得た。

##### 【障がい者のための鑑賞会】

日 時:11/18午後(休館日) (21組82人)

##### 【大人のための浮世絵摺り体験講座】

日 時:3/14(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

※文化庁補助事業については3-01-03を参照。

### B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態) 自己評価

#### 自己評価の詳細 プラス面

ミュージアム講座

- ・定員(150名)を超える168名の応募を受け付けた。
- ・昨年度に引き続き、参加費を事前納付としたことで、講座当日の受付を円滑に行うことができ、待ち列に対する苦情が寄せられることがなかった。
- ・日頃の学芸員の調査・研究内容を詳しく発信することができた。また、開催中の展覧会やコレクション展示に即したテーマも取り入れ、参加者が展示に関心を持つ機会となった。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第5講を中止としたが、記者発表、参加者へのダイレクトメールによる通知、電話問い合わせに係るマニュアル作成、修了証の送付を即座に漏れなく行うことで、参加者の混乱を防ぐことができた。

未就学児と保護者のための鑑賞会

- ・周囲への配慮から普段は博物館へ来づらいとお考えの、未就学児とその保護者に対し、気兼ねなく展示を鑑賞できる機会を提供することができた。
- ・新たな試みであったが、職員・インフォメーションスタッフを適切に配置し、事故やトラブルもなく円滑に運営できた。
- ・アンケートの結果、好評であり、「子供が小さいうちは博物館には行きづらいと思っていたので、このようなイベントがあるととても嬉しい」「また企画してほしい」といった感想があった。

障がい者のための鑑賞会

- ・過去の参加者や近隣の施設にダイレクトメールにて告知を行い、多くの参加者の来館を得た。
- ・職員、インフォメーションスタッフを適切に配置し、事故やトラブルもなく円滑に運営することができた。
- ・当日、参加者より好評の声が寄せられた。

#### 自己評価の詳細 マイナス面

ミュージアム講座

- ・会場である地階講堂の設備が老朽化しており、講座時にマイクが不調となることがあった。
- ・中止となった第5講に係る参加費を返金することができなかった。事前納付で徴収していた参加費は5講座分一括のものであり、1講ごとの単価が設定されていなかったためであるが、中止となる場合の想定をしておくべきであった。

未就学児と保護者のための鑑賞会

- ・アンケートにおいて「時間が短い」との意見があった。開始時に参加者が殺到し、受付が混雑したこともあり、時間設定に課題が残った。

P課題と目標	D実施内容	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>・子供向け普及事業の開催は、開かれた博物館として教育普及活動の重要な項目のひとつである。子供たちに博物館での学びの楽しさを理解してもらえ、取り組みとして、積極的に実施しなければならない。</p> <p>関連した魅力。</p> <p>ある子供向けのプログラムを実施する。</p> <p>・神戸市内各所の文化財・施設と連携したプログラムの制作と開催</p>	<p><b>D実施内容</b></p> <p><b>【事業一覧】</b></p> <p>①ジュニアミュージアム講座 11/17・12/15 32人参加</p> <p>②こうべ歴史たんけん隊 2/22 4人参加</p> <p>③親子鑑賞会 11/24 37人参加</p> <p>④浮世絵摺入門 12/1 17人参加</p> <p>⑤神戸旧居留地たんてい団 8/3 14人参加</p> <p>※別紙「令和元年度：普及事業一覧(2.子供向け)」を参照。</p> <p><b>【参加者の声】</b></p> <p>仮説を考えたり、いろいろ教えてもらったのしかった。/展示室まわりにもう少しかけ時間があればよかった。/神戸の歴史的文化財に入れてよかった。めったに入れないところに入れて良い経験になった。</p> <p>金属が溶けるところや金属を切る、けずるといった作業をすることができて、楽しかったです。/銅鐸の絵がおもしろかった。/先生のお話は聞きやすくてちょうどよいスピードでした。制作はいっぱいたのしいことができてよかったです。</p> <p>すごく楽しかったです。とくに地図を作って、本物のようにするところが楽しかったです。/。説明もおもしろくて分かりやすかったです。/どうやってコーヒーでそめるかと思っていたけどおもしろくて、地図に興味がわいた。なので、また、神戸市立博物館にきたいです。/保護者も一緒に参加したくなる内容でした。博物館の概要や特性も知る機会となり、再訪したいと思います。(保護者)楽しかったです。(子)</p> <p>ガラスや日本の地図など、とても面白かったです。/見れる時間と解説時間のバランスが良かった。/ザビエルなどの本物が鑑賞できてよかったです。/クイズを出してもらえたおかげで、子供たちも自主的に館内を回ることができました(親)/クイズを解いていたときも、なるほど、と思いながら解くことができました。</p>	<p><b>自己評価の詳細 プラス面</b></p> <p>・今年度の子供向けプログラムの開催は、リニューアルオープンとも重なり、充実していたものになった。</p> <p>・ほとんどのプログラムで好評価を得ている。応募多数のため、抽選になるプログラムもあった。人気のプログラムについては、今後定番化させていく必要がある。</p> <p>・広報については学校配布チラシや広報紙KOBEが主であるが、HPやSNSで事前に発信することもできている。</p> <p>・中学生からも参加申し込みがくるようになっており、浮世絵などは生涯学習につながるようなものとなってきている。</p> <p>・銅鐸鑄造や古地図の製作で電熱器を扱うことがあったが、扱う場所を別に設置し、スタッフが必ず付くことで安全に行うことができた。</p>	<p><b>自己評価の詳細 マイナス面</b></p> <p>・高校生向けのワークショップの企画・構成ができていない。</p> <p>・神戸市内への学校チラシは各校10部しか配布できなくなっている。その分をSNSで広報していく方向性でいるが、例年通りの発信しかできなかった。神戸歴史たんけん隊は子供向けチラシを作っていなかったため、特にSNSでの発信が必要であった。</p>

### 3-3-01-03 文化庁補助事業

#### P課題と目標

・神戸の文化資源の活用と人材育成につながる事業を展開する。  
・他機関と協力し、中核館としての役割を果たす。

【前年度実績】 ※当館が主催の事業のみ  
[学芸員と神戸を巡る] 5講座 10回 168人  
[大人のための浮世絵摺り入門講座] 10/27 6名  
[内田家住宅外国人向けワークショップ]10/19 市内の外国籍の方11人  
[明治にひたる1日 相楽園明治倶楽部]12/23 250人

#### D実施内容

##### 【神戸の文化発信実行委員会】

・当館を中核に、小磯記念美術館・神戸ファッション美術館・竹中大工道具館・BBプラザ美術館・神戸市外国語大学・神戸松蔭女子学院大学からなる「神戸の文化発信実行委員会」を結成。平成31年度文化芸術振興費補助金を交付。地域の博物館美術館・大学と連携を深め、ワークショップやイベントなどの事業を展開。

##### 【講座「神戸市立博物館の学芸員と神戸を巡る」】

神戸の歴史や文化を学ぶ講座 学芸員の解説をもとに、事前学習（於神戸市立博物館）と現地見学を実施 全3講座。

- ①『『古事記』から春樹まで―神戸と海と文学と―』 7/6事前学習(17人)、7/20現地見学(19人)
- ②「古写真からよみがえる神戸の街並み」 9/7事前学習(15人)、9/21現地見学(17人)
- ③「失われた記憶を求めて―廃墟・跡地ツアー―」 11/16事前学習(14人)、12/1現地見学(15人)

・アンケートにおいて、参加者全員より「よかった」「まあよかった」との回答。

##### 【明治居留地音楽会】 神戸松蔭女子学院大学と共催、11/30、参加者183人

・明治時代の外国人居留地で演奏された楽曲を、神戸松蔭女子学院大学のチャペルにて演奏。事前応募数が定員の200人を超えた。当日のアンケートで、8割以上の方より「よかった」「まあよかった」との回答。

##### 【明治時代の洋菓子再現・大正時代の洋装再現】神戸松蔭女子学院大学と共催

・博物館所蔵資料をもとに、神戸松蔭女子学院大学の教員と学生が明治時代の洋菓子と、大正時代のウエディングドレスの再現を行った。その成果を報告書としてまとめ(各500冊)、当館と同大学のほか、市内公共施設にて配布。その報告会を開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止のために中止。

##### 【英文パンフレット「神戸市内の伝統行事」】

・神戸市内に伝来する伝統行事について、写真入りで日程や内容を英語で紹介する冊子(1000部)を製作。成果物は、市内の外国人が通う学校の他、市内関係施設にて配布。

### 自己評価

#### 自己評価の詳細 プラス面

##### 【神戸の文化発信実行委員会】

・昨年度より実行委員会構成機関と連絡を取り合い、予算編成を早い段階から行っていたため、今年度の補助金申請についてスムーズに行うことができた。  
・補助事業を通じて連携することで、予算面や広報面において充実した事業を展開できた。当館においても、単独では展開しえない事業を行い、成果やノウハウの蓄積につながった。

##### 【講座「神戸市立博物館の学芸員と神戸を巡る」】

・3年目の実施となり、「失われた記憶を求めて」コースにおいては20名定員に対して倍率10倍もの応募を受け付けるほど、人気講座として定着してきていると言える。  
・講師に過去2年では担当したことのない学芸員を起用したことで、新たな企画立案に繋がり、参加者からも切り口の面白さに対する好評の声が聞かれた。

##### 【明治居留地音楽会】

・神戸松蔭女子学院大学と共催することで、当館のみでは実施できない音楽に関する大規模イベントを実施できた。  
・音楽会としての好評に加え、地域の歴史・文化に関する発信が出来た。また、音楽会の司会に同大学の放送部の学生を起用することで、神戸の文化に携わる人材育成にもつながった。

##### 【明治時代の洋菓子再現・大正時代の洋装再現】

・当館のみでは実施できない菓子や衣装の製作ができた。  
・製作に神戸松蔭女子学院大学の学生が参加できた。  
・中止となったもののウエディングドレスの試着体験には、20代の方からの応募が複数あり、当館の事業では薄くなりがちな若年齢層への波及が感じられた。

##### 【英文パンフレット「神戸市内の伝統行事」】

・これまでにはなかった、市内の伝統行事について英語で紹介する媒体が製作できた。

### A 優れている

#### 自己評価の詳細 マイナス面

##### 【神戸の文化発信実行委員会】

・補助金の性質上、当館が中核として取り仕切ることが求められてはいるものの、申請から事業実施、成果報告までに要する事務量が繁雑である。関係機関との作業分担も試みたが、神戸市の事務ルールに則っていただくことが負担となり、適切な理解が得られず、分担にはつながらなかった。また、神戸市の準公金取り扱い停止という指示により、令和2年度からこの種の補助金が受けられなくなった。

##### 【講座「神戸市立博物館の学芸員と神戸を巡る」】

・人気講座となり、落選者より講座資料の提供を求められるケースが見受けられた。送料負担を条件に提供したが、今後も含め他の講座でも同じ対応ができるわけではないため、ルールの整備と共有が必要と思われる。  
・「失われた記憶を求めて」コースにおいて、山道を進行中にルートを外れてしまい、急な行程変更が生じた。大きな事故や苦情は発生しなかったものの、より慎重になるべき場面での危機管理意識が欠如していた。

##### 【明治居留地音楽会】

・定員を超える応募があったため抽選を行ったが、当日来場したのは当選ハガキを送った3/4程度の人数であった。参加費無料であることのハードルの低さが影響したものと考えられるが、出演を依頼した演奏者に対する失礼にもなりかねない。

##### 【英文パンフレット「神戸市内の伝統行事」】

・博物館における他の業務負担もあり、過密なスケジュールの中での製作となってしまった。

## 3-3-02 博学連携

評価 A 優れている

**評価の詳細** 学校との連携については、年間100校以上を目標としているが、令和元年度は147校と目標を大幅に上回る実施数となった。幅広い内容で実施できており、現場教員からの評価は高く、リピート率も高い。ただし、校種別では大半が小学校であることから、中学校用授業プログラムの構築や周知方法の検討が前年度から続く課題として残されている。大学との連携については、リニューアル工事期間であるため博物館実習は中止となった。一方、連携協定を結ぶ神戸松蔭女子学院大学と神戸市外国語大学と、講義やワークショップを通じて連携することができたが、事業の実施にあたり認識の違いから、双方の意思疎通に課題が残されている。

### 3-3-02-01 連携授業

### 自己評価

#### S 特に優れている

#### P課題と目標

・博物館所蔵資料と関連づけた連携授業を、授業の進度にあわせ、学校と緊密に連携しながら実施する。  
・連携授業について、過去5年間100回以上実施されている。今年度も年間でのべ100回以上の実施を目標とする。  
・移動博物館車(おきしお夢はこぶ号)による授業を効果的に展開する。

#### 【過年度実績】

平成30年度:143校 11,139人／平成29年度:131校 9,026人／平成28年度:134校 10,102人／平成27年度:113校 8,667人／

#### D実施内容

##### 【スケジュール】

・年度当初に学校に配布する博物館利用案内とHPで連携授業プログラムを紹介。  
・4月当初から電話にて授業の受付を開始。日程調整、学校との打合せ、授業実施と進めた。

##### 【学校数・人数等】

・147校(保1、小133、中12、特支1)334時間(保1、小305、中27、特支1)、10,294人(保19人、小9,362人、中909人、特支4人)  
・連携授業内訳:  
古代体験17回／銅鐸5回／源平25回／西洋27回／伊能囿14回／文明開化23回／浮世絵28回／水墨画4回／港1回  
土器について1回/おきしお夢はこぶ号展開のみ2回  
・学芸員の同行:  
すべての連携授業に同行。学芸員9人、のべ34校の授業に同行、より専門的な講話、資料活用を実施。

##### 【移動博物館車「おきしお夢はこぶ号」の活動】

・出勤回数(20校)

#### 自己評価の詳細 プラス面

・年度初めの2、3日で3学期の上旬までの予定が埋まってしまう程の人気がある。  
・館蔵作品や資料のレプリカを教材として用いることにより、当館自体にも関心を持たせることができている。  
・先生方との打合せでさまざまな要望やアイデアをいただき、当該校に適した授業を行うことができている。  
・新学習指導要領にも対応する内容になっている。  
・授業進度や内容を深めることにも貢献することができ、現場の先生方から好評を得ている。  
・学芸員が同行することにより、より専門性の高い授業を行うことができている。  
・リピート率が非常に高く、新規も増えている。  
・おきしお夢はこぶ号の展開を授業時間でシステム化(見学、ワークシートへの取組み、解説をローテーション)することで、より活用しやすいようにしている。

### 3-3-02-02 大学との連携(博物館実習含む)

### 自己評価

#### B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

#### P課題と目標

・神戸松蔭女子学院大学、神戸市外国語大学との連携協定にもとづき、双方の強みを活かした事業を企画し、円滑・安全に実施する。  
・来年度の博物館実習受入の準備を進める。

#### 【昨年度実績】

連続講演会「神戸を知る、神戸に遊ぶ」 3回  
210人  
神戸松蔭女子学院大学インターンシップ受入  
10日間 80時間  
神戸松蔭女子学院大学「神戸研究総論への出講」 5月～7月 6回

#### D実施内容

##### 【神戸松蔭女子学院大学との連携】

・「神戸研究総論」への出講  
5～7月 6回  
・「神戸の文化発信と人材育成」事業(シート「3-01-03」参照)  
文化庁「地域と共働した美術館・博物館創造活動支援事業」採択メニューとして協力実施  
・11/30 明治居留地音楽会の開催  
・明治時代の洋菓子再現・大正時代の洋装再現事業

##### 【神戸市外国語大学との連携】

・外国人大学生のための浮世絵ワークショップ  
9/25 竹の台小学校によるワークショップ

##### 【博物館実習】

・令和元年度はリニューアル休館に伴い、実習は中止  
・令和2年度実習について、3/1より当館HPにて募集を案内

#### 自己評価の詳細 プラス面

##### 【神戸松蔭女子学院大学との連携】

・文化庁の助成を得て多くの学部、学科の協力のもと多様な事業が展開できた。  
・博物館が資料を提供し、その資料をもとにスキルを持った教員や学生が事業展開する双方の強みを活かした事業となった。  
・神戸の大学と博物館にしかできない「神戸研究総論」の授業を実施し、来年度も継続することで合意できた。

##### 【神戸市外国語大学との連携】

・竹の台小学校に在籍するオーストラリアからの留学生に、浮世絵摺体験のワークショップを実施できた点、評価できる。

## 3-3-03 学習支援交流員

評価 A 優れている

**評価の詳細** リニューアル初年度にあたる令和元年度は、学習支援交流員の新規事業に関する取り組みが積極的に行われ、新しい体験学習室を拠点とするワークショップのあり方が確立しつつあるのは評価できる。担当学芸員による勉強会を積極的に行うなど、次年度での開催により学習支援交流員と学芸員との連携を強化したい。また、課題であった交流員規約の改正も行われ、より効率的かつ公正な運営が期待できる。今年度は新規登録希望者を9人迎え、研修も順調に行われていたところへ、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中断を余儀なくされているが、1日も早い再開が望まれる。学習支援交流員の企画・運営による事業も、前年度と同様に活発に行われた。リニューアルによって一新された常設展示・体験学習室が、学習支援交流員の居住地ガイドやワークショップを大きく後押ししている様が見て取れた。博物館の企画事業への学習支援交流員の積極的な参加もあり、各事業の円滑な実施に結びついている。ただし、新装なった体験学習室を本格稼働させるまでには至っておらず、ここに学習支援交流員の大きな伸びしろがあるように感じられる。年度末に急速に広まった新型コロナウイルスは、学習支援交流員の活動に大きな壁となっているが、次年度はその対応が大きな課題となるだろう。

### 3-3-03-01 学習支援交流員の活動(定例会・研修・活動人数)

自己評価 A 優れている

#### P課題と目標

・研修及び定例会開催概要(参加者数、定例会出席状況、研修実施状況)  
・学習支援交流員の人数・来館状況・職員  
の関与。  
・博物館事業の支援など日々の活動

・学習支援交流員の規約を例年更新後に確認しているが、現状にそぐわない内容も見られるようになってきたことから、規約の見直しと改正を行うことを検討する。

・リニューアル休館のため新規募集を中断していたが、充実した活動を展開するために、次年度は募集を再開する。

#### D実施内容

【定例会・研修など】  
・定例会:毎月第1金曜日午後2時から実施、全11回、延べ256人参加(各回平均21.3人)  
※定例会は2月7日の第11回まで行うことができたが、その後の感染拡大のため、3月は定例会を開催できなかった。  
内容:毎月の博物館行事、活動予定と参加者の募集、活動の報告、今後の活動と協議事項など  
・登録・登録更新にかかる研修:2回 のべ47人  
・外部依頼による研修 1回 9人

【博物館事業支援】  
24回、のべ182人

【学習支援交流員数】  
年度当初 学習支援交流員15人 学習支援交流員アドバイザー13人 合計28人  
来館(活動)状況 のべ111日、956人  
※元年度は募集を再開し、9人を新規登録者とした。

#### 【規約改正】

・2019/6/19付で規約を改正。行財政局法務課の担当者のチェックを受け、主として文章を正確な内容に整えるとともに、項目として「交流員リーダーの設置」を削除。改正した規約は、定例会で学習支援交流員に配布。

#### 自己評価の詳細 プラス面

・定例会がほぼ毎月行われ、学習支援交流員の半数以上が参加した。  
・昨年行われなかった新規募集を行い、9人を新規登録とした。  
・昨年度より懸案だった規約の改正をおこなうことができた。

#### 自己評価の詳細 マイナス面

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、定例会や研修の一部を中止せざるを得なくなった。

### 3-3-03-02 学習支援交流員による講座・ワークショップ

#### P課題と目標

- ・リニューアルに伴い学習支援交流員室に隣接して設置された体験学習室の運営
- ・新たに構築した企画も含むワークショップの実施
- ・居留地ガイド

- ・技術継承のための各ワークショップのマニュアル作成について検討する。
- ・リニューアルオープンにむけて学習支援交流員担当の職員だけでなく、他の学芸員、指導主事、交流員が意見交換しながら、来館者に博物館や神戸の魅力を感じていただけるワークショップの開発や体験学習室の運営について検討していく。

#### D実施内容

【学習支援交流員による検討会・勉強会】  
ワークショップ検討会 10回 延べ85人参加(学芸員講師による勉強会:1回 「銅鐸の世界」(1/17・18人)を含む)

【学習支援交流員によるワークショップ(居留地ガイドを含む)】  
26回 学習支援交流員参加者延べ161人 一般参加者490人  
「紙コップで銅鐸作り、コースター作り」2回  
「ザビエルの生涯紙芝居、掛け軸作り」3回  
「伊能忠敬の紙芝居、浮世絵摺り」2回  
「浮世絵摺り師に朝鮮」6回  
「乾拓をしてみよう」4回  
「居留地ガイド」9回

【来館対応(体験学習室案内を含む)】  
12回 学習支援交流員案内延べ22人 一般参加者421人

※詳細は、別紙「令和元年度:普及事業一覧(3.交流員)」を参照。

### B 標準(求められる能力や役割を自己評価果たしている状態)

#### 自己評価の詳細 プラス面

- ・11月のリニューアルオープン～2月後半の新型コロナウイルス拡大の防止のための交流員活動停止までの4ヶ月までの短い期間であったが、多くの来館者にワークショップや居留地ガイドを楽しんでいただくことができた。
- ・ワークショップ検討会がほぼ月1回のペースで行われ、ザビエルや伊能忠敬の紙芝居などあらたなワークショップを公開するに至った。ワークショップのマニュアル化までには至らなかったが、多くの交流員がワークショップ運営に携わる体制が整いつつある
- ・居留地ガイドは博物館のリニューアルオープン後には、内部の展示施設を利用してガイドの事前説明ができるようになり、居留地への理解が進むガイドを行うことが可能となった。

#### 自己評価の詳細 マイナス面

本来は、体験学習室内に学習支援交流員が常駐し、つねにこの部屋が活気のある状態とするのが理想であるが、現実はこれに程遠い。

## 3-3-04 地域連携

評価 A 優れている

**評価の詳細** 10月までリニューアル休館中だったが、地域や他団体との連携も積極的に行われた。特に、勤労市民センターへの講師派遣は月1回のペースで行われ、各区の地域に関連した知見を、参加者に提供する機会として定着しつつある。

多くの事業を円滑に実施するためには、十分な人員配置や、職員間・連携先とのより一層綿密な意思疎通をはかっていくことは依然として課題として念頭に置くべきである。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響が年度終わりの事業に出てしまったが、令和2年度は更に連携先の特性や事情を鑑みながら、これに対する慎重な対応が迫られることになるであろう。

「はいからプロジェクト」などの地域団体が主催する事業に間接的な参加・協力を始めたものがあるが、令和2年度以降のこれらへの関与のあり方は、その博物館普及事業としての有用性と他の事業とのバランスを検討しつつ、有用なものについては学芸員の積極的な参加を進めるべきであろう。

3-3-04-01 地域連携	自己評価	A 優れている
<p><b>P課題と目標</b></p> <p>博物館学芸員の専門性や館蔵品に関連した内容で、地域文化の活性化に資する事業を企画、実施する。</p> <p><b>【前年度実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・居留地を知る 感じる 2回 32人</li><li>・勤労市民センターへの講師派遣 12回 427人</li><li>・婦人大学への講師派遣 2回 99人</li><li>・神戸シルバーカレッジ 1回 133人</li><li>・公民館との連携 2回 54人</li><li>・日本教育公務員弘済会兵庫支部の受託事業実施 2回 54人</li><li>・兵庫県立考古博物館への事業参加 2回</li><li>・神戸市立婦人会出前トーク 1回</li><li>・県立神戸生活創造センターセミナーでの事業1回</li><li>・こうべっこランド 中学生プログラムの実施 1回</li><li>・おきお夢運ぶ号の地域イベントへの出務 2回</li></ul>	<p><b>D実施内容</b></p> <p><b>【共催事業・協力事業】</b>(各事業の詳細は別紙「令和元年度:普及事業一覧(4.共催・協力事業)」を参照)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①神戸いきいき勤労財団・神戸市立博物館連携事業による勤労市民センターの講座 12回374人</li><li>②婦人大学 12/11(37人)、12/18(28人)</li><li>③太山寺まつりへの協力 太山寺の歴史及び文化財のパネル展示及び解説 5/11 のべ300人参加</li></ul> <p><b>【移動博物館車「おきお夢はこぶ号」の活動】</b></p> <p>地域イベント2カ所(神戸まつり、RICあそび場)</p> <p><b>【その他の地域事業協力】</b></p> <p>旧居留地連絡協議会の一員として、当地区の賑わいと風格あるまちづくりを進めており、6月には街角でのイベントを通じて地区と盛り上げるため、「はいからプロジェクト実行委員会」が設立された。当館はその中心となり、ジャズやクラシック等のコンサートを地区内各所で実施し、賑わいづくりを進めた。</p> <p>また、市内の博物館等の21の施設が連携する「KOBE MUSEUM LINK」には、神戸観光局、旅行事業者、鉄道事業者なども参画し、活性化を目指した連携事業を模索しているところである。</p> <p>「はいからプロジェクト」(旧居留地連絡協議会、4月～12月), 「旧居留地文化等発信事業実行委員会」(9月～10月), 「KOBE MUSEUM LINK」(11月)が開催する事業に参加・協力した。(事業の詳細は別紙「令和元年度:普及事業一覧(4.共催・協力事業)」を参照)</p>	<p><b>自己評価の詳細 プラス面</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・特別展及び各学芸員の専門性にあわせて多様な講座を展開することができ、高い満足度を得た。</li><li>・各区の地域に連携した話は地域の魅力を再確認する機会ともなっている。</li><li>・旧居留地連絡協議会、KOBE MUSEUM LINKなど周辺地域や他の博物館等との連絡を強化し、全体としての活性化を目指すことにより、当館の認知度向上へのステップとすることができた。</li></ul> <p><b>自己評価の詳細 マイナス面</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・職員間、連携先との意思疎通において行き違いがある時があった。</li><li>・2月に新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、中止となった講座が出た。</li></ul>

## 4. やさしさと安心の確保

評価B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

**評価の詳細** 老朽化している設備が多く、その中で適時、対応が行われている。また、インフォメーション業務、警備・清掃に関しても開館時、閉館時ともにも柔軟に対応が行われた。博物館の管理、運営業務に関して、全体的に求められる能力や役割を果たせたものと考えられる。

## 4-4-01 施設管理

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

- 評価の詳細
- ・設備保守の委託先事業者と緊密に連携して、適切に維持管理・運営を行った。
  - ・ただ、老朽化している設備が多く、今後とも注意を払って、維持管理を行うとともに、計画的に更新を進めていく必要があり、予算措置を講じ、順次対応していく。

4-4-01-01 建物・設備の現状と課題、長寿命化の計画と対策		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<b>P課題と目標</b>	<b>D実施内容</b>	<b>自己評価の詳細 プラス面</b>	<b>自己評価の詳細 マイナス面</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・法令で定期点検や訓練が必要な事項については、すべてクリアするべく予算計上し、執行するよう努める。しかしながら、建物、設備等の陳腐化・老朽化等により、対応が不十分な点もある。</li><li>・新しい規格に合う設備や施設を更新していく必要がある。</li><li>・設備総括管理業務の委託業者との連携 設備等の情報共有を深めるとともに、計画性を持って設備保守点検等を実施したい。</li><li>・ライトアップ事業を予定通り完成させる。</li></ul>	<p><b>【通常点検業務】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・エレベーターや消防設備等点検、法定点検や修理を行い、法定点検をクリアするとともに、古い部品を更新した。</li></ul> <p><b>【営繕工事関係】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今年度は非常用自家発電設備の更新工事が設備課との調整のもと無事完了した。</li><li>・博物館リニューアル工事によって、新たに空調設備機器やトイレの洋式化や衛生器具などが更新された。</li><li>・緊急対応として、屋上防水工事、外壁修理工事、ガス炉破損改修工事を実施した。令和2年度以降は適切に運転・管理を行っていく。</li><li>・博物館のライトアップ工事も本庁設備課との調整のもと完了した。照明デザイナーの演出で、「ナイトミュージアム」に伴うライトアップは好評を得た。</li><li>・消防設備等点検結果の情報を共有し、設備点検の専門的な観点から補修等を実施した。</li><li>・リニューアル工事の対象として扱えなかったものの、収蔵庫及びバックヤード系施設の照明のLED化、上水道の直圧化、空調設備の老朽化に伴う更新の必要性が新たに発生し、これらの工事に向けた予算の獲得と実施時期の調整が必要である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・設備の更新については、設備総括管理業務を委託している業者と連携をとりながら、改修工事を確実に行った。</li><li>・常に情報を共有するよう勤め、設備管理に支障のないように心がけた。</li><li>・市の政策予算で実施したライトアップ事業で好評を得た。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・設備自体が古いものが多く、経常的な予算の増額を確保することが困難な状況で必ずしも十分な補修ができなかった。</li></ul>

## 4-4-02 インフォメーション、ショップ・カフェ

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

- 評価の詳細
- ・インフォメーション業務については、適切に運営された。各種報告、来館者対応、電話対応も適切に行われた。
  - ・新型コロナウイルス感染症関係で、特別な体制、業務を要請したが、柔軟に対応できた。
  - ・ショップ・カフェについては、来館者に喜ばれる工夫をし、おおむね良好な運営ができた。3月以降については、新型コロナウイルス感染症対策で、休業を余儀なくされた。

4-4-02-01 インフォメーション	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<b>P課題と目標</b> ・適切な業者の選定を行うこと ・インフォメーションおよびコレクション展示入口での業務を円滑に実施すること ・事務室内電話対応を円滑に行うこと ・日報を正確に作成するとともに、入館者情報を適時的確に行うこと	<b>自己評価の詳細 プラス面</b> 職員とインフォメーションスタッフとの円滑に事務が行えた。 日常業務には、信頼関係が築けた。	<b>自己評価の詳細 マイナス面</b> 特別展で異なる事業者が選定された場合の役割分担について、特別展のスタッフとの事前調整をさらに綿密に行う必要があった。
4-4-02-02 ミュージアムショップ・カフェ	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<b>P課題と目標</b> 適切な業者の選定 入館者に喜ばれるカフェ・ショップづくり	<b>自己評価の詳細 プラス面</b> ・博物館の雰囲気をも十分に生かすため、照明設備や床材、机椅子などの調度品に工夫を凝らした。 ・また、旧トムセン邸を復元した特別室も用意し、魅力あるカフェ・ショップづくりを実現した。	<b>自己評価の詳細 マイナス面</b> ・平日の地域のリピーター客の取り込みの工夫が必要であった。

## 4-4-03 警備、清掃

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

- 評価の詳細**
- ・警備については、来館者のチェック、巡回業務を適切に実施できた。
  - また、展示関係事業者、設備工事関係事業者とも適切に連携を取り、問題なく行うことができた。さらに、事の大小にかかわらず、問題点については積極的に報告・連絡・相談を行い、円滑に業務を遂行した。
  - ・清掃業務についても、おおむね適切に行った。特に、新型コロナウイルス対策もきめ細かく柔軟に対応できた。定期清掃では、長年清掃できなかった1階ホール大理石の壁面を安全に清掃できた。

### 4-4-03-01 警備

自己評価

B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

#### P課題と目標

リニューアル工事期間中、およびリニューアル開館後それぞれに適切な警備を実施すること。

#### D実施内容

- ・機械警備の契約更新が31年5月であるため、契約監理課を通じ契約更新を行った。
- ・人的警備においても10月末までは1名体制を継続し、11月からはリニューアルオープンで2名体制(1名は24時間勤務)で警備を実施した。休館日や臨時休館日については1名体制を実施。
- ・通用門における入館者チェックを厳格に行い、不測の事態に備えた。
- ・館内外での巡回警備を適切に行い、特に問題は生じなかった。

#### 自己評価の詳細 プラス面

- ・31年度の契約更新では、警備業者が変更となったが引継ぎ等良好で問題なく実施できた。
- ・立哨警備及び巡回警備についても、特に問題なく業務追行できた。

#### 自己評価の詳細 マイナス面

- ・リニューアル工事期間中は1名体制であるので、巡回警備等により通用口を閉鎖することがあった。

### 4-4-03-02 清掃

自己評価

B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

#### P課題と目標

- ・清掃業務は、開館日が3名体制、臨時休館日が2名体制。
- ・リニューアル工事期間中の業務内容及び体制の見直し。

#### D実施内容

- ・10月に契約更新を行い、(株)アール・シーから(株)CL神戸に変更となった。
- ・清掃もリニューアル期間からリニューアルオープン後を反映した体制の契約を行った。
- ・展示室、ホール、駐車場、外回りなどゾーニング行い、清掃具をゾーニングごとに用意し適正に清掃を実施した。
- ・特に、2月以降は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、殺菌等も含め、きめ細かく清掃を実施した。

#### 自己評価の詳細 プラス面

- ・11月よりリニューアルオープンであったが清掃契約の更新も問題なく更新できた。

#### 自己評価の詳細 マイナス面

- ・特になし

- ・リニューアル後は、文化庁からの指導による清掃範囲(清掃具を含む)のゾーニング分けを実施

## 4-4-04 緊急時対応

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

- 評価の詳細**
- ・救護室の運用、忘れ物対応など適切に行うことができた。
  - ・インフォメーションスタッフ、警備員などの巡回で、不測の事態が起こらないよう留意した。
  - ・避難誘導訓練では、想定外の事態では、必ずしもマニュアル通りに動かず、臨機応変に対応する必要があることを情報共有した。
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止については、ハード・ソフト面ともに万全の対応を行ったが、今後とも関係機関と情報を共有し、対応していく。ただ、手指消毒液、マスクの備蓄などについて今後の課題として残った。

### 4-4-04-01 緊急事態への対応状況(来館者対応、事件・事故・災害対応)

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

#### P課題と目標

・想定外の事態にも対応できるよう、すべての職員・スタッフがどう対処するかを常に意識しておくこと。

#### D実施内容

・気分がすぐれない来館者を救護室に案内し、適切に対応した。  
・入館者が展示物にふれ、展示物が損傷した(1階神戸の歴史展示室)。巡回を強化し、再発防止に努めた。  
・スケートボーダーが、博物館南側の塀の上で夜間危険な行為を繰り返しているのが、夜間警備で発覚、警察に巡回警備強化を依頼、実施してもらった。塀の上にブランターを置き、危険な行為を阻止した。

#### 自己評価の詳細 プラス面

・来館者への対応をスムーズに行うことができた。

#### 自己評価の詳細 マイナス面

・緊急事態を未然に防ぐための工夫を日頃からさらに考える必要がある。

### 4-4-04-02 大規模災害への対応策

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

#### P課題と目標

・神戸市立博物館消防・救急計画の周知徹底。  
・実態に即した避難訓練の実施。  
・想定外の事態への柔軟な対応。

#### D実施内容

・11月のリニューアルオープンの際、消防避難訓練の実施を行った。  
・出火場所により、マニュアル通りではなく、適切な誘導が必要であることも全員で情報共有した。  
・新型コロナウイルス感染症対策において、市の危機管理室とも状況共有を行った。  
体調不良者等の入館自粛依頼、咳エチケットなどの周知  
タッチパネルや体験学習室・情報コーナー等の利用制限  
アルコール消毒液の設置、非接触型体温計の準備  
館内の木間細やかな清掃・消毒の実施  
特別展の開催延期

#### 自己評価の詳細 プラス面

・消防避難訓練を通じて貴重な体験を共有できた。  
・新型コロナ感染症防止対策を円滑に実施した。

#### 自己評価の詳細 マイナス面

・手指消毒液マスクなど一部備蓄が十分でないものがあつた。